

---

令和3年 第109回(定例)新温泉町議会会議録(第3日)

令和3年9月3日(金曜日)

---

議事日程(第3号)

令和3年9月3日 午前9時開議

- 日程第1 諸報告  
日程第2 一般質問  
日程第3 議案第82号 令和3年度新温泉町一般会計補正予算(第4号)について  
日程第4 議案第83号 令和3年度新温泉町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)について  
日程第5 議案第84号 令和3年度新温泉町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について  
日程第6 議案第85号 令和3年度新温泉町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)について  
日程第7 議案第86号 令和3年度新温泉町浜坂地区残土処分場事業特別会計補正予算(第2号)について  
日程第8 議案第87号 令和3年度新温泉町温泉地区残土処分場事業特別会計補正予算(第2号)について  
日程第9 議案第88号 令和3年度新温泉町七釜温泉配湯事業特別会計補正予算(第1号)について  
日程第10 議案第89号 令和3年度新温泉町水道事業会計補正予算(第2号)について  
日程第11 議案第90号 令和3年度新温泉町公立浜坂病院事業会計補正予算(第2号)について

---

本日の会議に付した事件

- 日程第1 諸報告  
日程第2 一般質問  
(1) 5番 浜田 直子君  
(2) 14番 谷口 功君  
(3) 7番 太田 昭宏君

---

出席議員(15名)

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1番 池田 宜広君 | 3番 河越 忠志君 |
| 4番 重本 静男君 | 5番 浜田 直子君 |
| 6番 森田 善幸君 | 7番 太田 昭宏君 |

8番	竹内敬一郎君	9番	阪本晴良君
10番	岩本修作君	11番	中村茂君
12番	宮本泰男君	13番	中井次郎君
14番	谷口功君	15番	小林俊之君
16番	中井勝君		

---

欠席議員（なし）

---

欠員（1名）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 仲村祐子君 書記 ..... 小林正則君

---

説明のため出席した者の職氏名

町長	.....	西村銀三君	副町長	.....	西村徹君
教育長	.....	西村松代君	温泉総合支所長	.....	中井一久君
牧場公園園長	.....	小野量就君	総務課長	.....	井上弘君
企画課長	.....	中井勇人君	税務課長	.....	中村裕君
町民安全課長	.....	小谷豊君	健康福祉課長	.....	中田剛志君
商工観光課長	.....	水田賢治君	農林水産課長	.....	西澤要君
建設課長	.....	山本輝之君	上下水道課長	.....	井上陽一君
町参事	.....	土江克彦君	浜坂病院事務長	.....	宇野喜代美君
介護老人保健施設ささゆり事務長	.....	山本幸治君	会計管理者	.....	吉野松樹君
こども教育課長	.....	中島昌彦君	生涯教育課長	.....	谷渕朝子君
調整担当	.....	島木正和君			

---

午前9時00分開議

○議長（中井 勝君） 皆さん、おはようございます。

第109回新温泉町議会定例会3日目の会議を開催するに当たり、議員各位には御多用のところ御参集を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日は、2日目に引き続き、一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。

議員各位におかれましては、格別の御精励を賜り、議事の円滑な運営に御協力をいただきますようお願いをいたします。

町長挨拶。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の皆様、おはようございます。

定例会第3日目の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、昨日に引き続きまして3名の方より一般質問を賜っているところであります。いずれも行政運営に係る重要な案件であり、誠意を持って答弁をさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、休憩中には補正予算の説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（中井 勝君） ただいまの出席議員は15名で、定足数に達しておりますので、第109回新温泉町議会定例会3日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

---

### 日程第1 諸報告

○議長（中井 勝君） 日程第1、諸報告に入ります。

議長から報告いたします。去る9月2日の会議以来会合に出席していますが、別紙議会対外的活動報告を見ていただくことで省略をいたします。

---

### 日程第2 一般質問

○議長（中井 勝君） 日程第2、一般質問に入ります。

まず、教育長から、昨日の答弁の訂正があります。

西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 大変申し訳ありません。昨日、重本議員の防犯カメラの設置状況についての御質問の中で、小・中学校の設置状況につきまして、私のほうが設置ができてないというような答弁をしてしまいました。現在、浜坂南小学校と浜坂中学校のほうでは防犯カメラが設置されております。訂正させていただきたいと思います。大変申し訳ありませんでした。

○議長（中井 勝君） それでは、2日目に引き続き受付順に質問を許可いたします。

初めに、5番、浜田直子君の質問を許可いたします。

5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） おはようございます。5番、浜田直子です。議長より許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

それでは、地産地消の給食で、目指せ、日本一の給食をお尋ねします。当町の給食は、とてもありがたいことに以前よりおいしいと好評であると感じています。子供たちもきっと毎日楽しみにしている子供も多いと思います。そして、家庭で食事を作っている保護者の方たちにとっても、子供の成長に合わせた日々の献立を考えるのは、栄養を考えると気を遣うといえますか、分からなくなってしまう。ですが、毎日しっかりと栄養を考えた給食を子供たちが食べているので、給食を食べているから大丈夫という安心感がありました。よくお母さん同士の会話でも、給食があって助かるねと話していまし

た。その上、新温泉町は、知れば知るほどおいしい食材の多い食の宝庫です。それも日本一くらいの食材が幾つもあり、海の幸、山の幸、それぞれ生かした浜坂ちくわやゆば、それにそばとか、野菜などこの新温泉町ならではの豊富な食材を生かし、子供たちの心と体の成長を応援する日本一の給食を目指されてはどうか。町長のお気持ちをお尋ねいたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教育長からお答えをさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本町の給食なんですけれども、現在地産地消を一つの柱として取り組んでおります。安心して新鮮な地元の食材をより多く提供できるように、子供たちに知ってもらうような取組をしております。その中で、いろんな工夫をしながら職員が手作りで真心を込めて給食を提供しております。地域に密着した特色ある献立を作成しながら、特にもう有名になっておりますが松葉ガニの提供をいただいていること、それからジャムなどの郷土料理、それから子供たちからの希望献立というような形、それから給食週間の特色ある献立等、子供たちに大変好評になっております。地元食材の活用した新しいレシピの考案などしながら、地元の野菜をより多く使用できるようなメニューづくりに取り組んでいこうと、子供たちに喜んでもらえるように、栄養もあり安心して食べていただけるような取組を続けているところでございます。

○議長（中井 勝君） 教育長、日本一の給食を目指してはどうかという質問ですから、それに答えてください。

○教育長（西村 松代君） 本当にどこにも負けていないすばらしい給食だと思っています。目標を高く、志高く、日本一の給食、どこにも負けない給食を目指して、地元の皆様と協力しながら、そういったことができれば本当に本町の自慢できることにつながると思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように、ぜひ目指していただきたいと思います。その前に、以前町民に向けた給食センターでの給食試食会というのが毎年開催されてきました。何度か参加させていただきました。そのような機会をつくってくださっていたので、子供たちの健やかな成長と笑顔のために、栄養士、調理師、事務局等が一つとなって細やかな配慮で安心、安全、栄養はもちろんのこと、おいしい給食を作ってくさっている姿をじかに感じる事ができ、とても感動いたしました。と同時に、限られた時間と予算の中でこんなにたくさんの量、約1,100食もの毎日の献立を考え調理されるのはどんなに大変なのかなと驚くと同時に、給食センターの皆さんのおかげで当町の子供たちはすくすく成長し、にこにこ健やかに過ごしているということに本当に感謝いたしました。そして、前回の一般質問でも触れましたが、浜坂漁協の組合長は今でも年に4回もホタルイカや、先ほども言うてくださってましたけどカニなど提供してくださ

っています。日本一と一緒に目指そうとって、もっと協力してくれるというふうなことも言ってくださいました。ここは特にほかにも日本農業遺産の但馬牛など地域の食材、本当に日本一と言えるものがたくさんございます。この新温泉町でできた食材を認識しながら食べることにより、地域の産業を知り、身近に感じ、興味を子供たちが持っていていただくことがふるさと教育の一步であり、きっかけとなって、産地、漁港、牛舎、田畑や果樹園、食品加工場などの現地を訪問し、生産者との交流を重ねてはどうでしょうか。そうした体験を通した生きた食育は、子供たちの心と人生にとっても大切と思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在、議員のおっしゃりますように豊富な新鮮な地元の食材をいろいろ提供していただいております。現在、毎年浜坂漁協のほうからは、4月ホタルイカ、それから5月にはハタハタ、11月にはセコガニ、秋から冬にかけてはアカイカを提供していただいております。さらに、今年度はアカエビの提供も10月にさせていただけるというようなことで、今栄養士が献立をもう既に考えております。そのほかにも、三尾産のワカメだとか、いろいろ水産物を含めて、水産物だけとって月にも1回は地元の食材を提供しているというようなことになります。地元の食材を含めてこのような取組は、せっかく毎月地元のものを提供しているんですけども、そういったことをもっともっと周知していきたいというような思いがありまして、非常に本当に浜坂漁港様の御厚意により、本当にありがたい食材を子供たちが給食の中で食べさせていただいておりますので、そういった地域産業への理解とそれから地元食材の消費拡大を推進するために、8月23日の校園長会の中で水産担当課のほうから学校長に対しまして、小学校の社会科の副読本がございまして、「私たちのまち新温泉町」という副読本の中に食材の提供についての紹介と、食材に対するそういったものを教材を使って子どもたちに伝えていく、地域の新温泉町でこんなふうに地元の皆さん、みんなが食べてる魚はこんなふうにして漁獲してるんだよというような、そういったことを教材で伝えていって、そして食べたならそのことについての感想を、子供たちの感想を漁協の皆様にお届けする、そういったお互いがつながり合っていくような、そういった取組を進めるように校園長、学校長に水産担当課から連絡をしてもらっております。本当に、現場に行ってみて皆さんの働いておられる姿、そういったことが本当に自分の目で見るということで実体験が非常に大きな成長にもつながるとは思っております。そういった、やっぱり地元の方とのつながりを今後は教育の中でもしていく必要あると思っておりますし、今現在トライやる・ウィークで、今年度は浜坂漁協に行った子供たちはイカのさばくとか、そういった体験とか、どういうふうに加工されていくのかとか、そういった体験もさせていただいております。そういったことで、大人が真剣に働いてる姿を見るということは、大変子供の成長にとって大きなことだと思っておりますので、また今後考えていけたらというふうに、連絡、調整等いろいろ必要になってまいりますので、考えていきたいと

思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ありがとうございます。以前の提案を早速スピーディーに取り入れてくださり、本当に感謝いたします。そのように、子供たちのために前向きに取り組んでいただくこと、とてもありがたく思います。ですが、予算があると思います。何よりも驚いた、驚いたのはというか、そのように提供していただける分は本当にありがたいのですが、ほかの食材はどうしても値段、作っておられる方も値段がかかります。そうなってくるとやはり市販のものとか、地元のもの、地元の方があまり値段的に割が合わないようでは続いていかなくなってしまいます。こういった給食費に対する、親の負担はなく、予算的に増やしていただけるというようなことは可能でしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 給食費のことにつきまして、いろいろ今後連携等、いろいろ調整も要と思います。親御さんの負担ということはあると思いますので、そういったことも含めて、コロナ禍の中でもあります、いろんな調整をしながら、予算のことですので教育委員会として今現在、ここで発言することが難しいと思いますので、今後調整をしながら、やはりおいしい給食を提供するために、喜んでいただけるためにいろんなことを考えていけたらというふうに思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 予算的なことは難しいですし、途中で変えるのも大変だとは思いますが、そういったような思いで取り組んでくださるというのは大変ありがたく思います。また、先ほどの話に少し戻りますが、地元の食材、食にこだわって、そのように先ほど教育長が述べられたように地域の方たちとの触れ合いというか、そういったふるさと教育に取り入れてくださるというのは本当にありがたく思います。そういった食に関わっておられる方たちが、子供たちが来てくれる、子供たちが食べておいしいと言ってくれる、子供たちの笑顔が目に見える、そういったことが本当に生産者の方たちの励みにもなると思いますので、これからはぜひどんどん広めていただけたらと思います。また、先ほども日本一を目指したいというふうに言っておられましたが、実際私も、もう多分日本一だろうなと自分では思っております。ですが、やはり実際に日本一を何かで取るのと、自分で思っているのではちょっと違いますので、めざせ幼児給食日本一！「給食の鉄人」とか、2年ほど前に養父市が日本一になりました日本一の給食、学校給食甲子園とかありますので、ぜひそういったようなものに挑戦していただけたらと思います。そういったような挑戦する、大人が挑戦する姿というのがまた子供たちに何かの形で、何らかの形で感じるというか伝わる、大人たちも頑張っているんだっていうのもちょっとあれかもしれないんですけど、そういったような気持ち、子供たちに何らかの形で届くのではないかと思います。先ほど

答えていただいているんですけど、日本一目指していただけますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） いろんな日本一、どんなことが日本一とかいうことが、いろんな考え方とかいろいろあると思います。でも、本当に新温泉町で取り組んでいる給食の取組、食材の提供していただいていることや、本当に素晴らしい取組をずっと長年続けていただいているということに感謝の気持ちを忘れず、しっかりと子供たちと一緒に、やはりこの新温泉町の給食は誇れるんだというような気持ちを子供たちにも持ってもらえるように何らかの取組、少しずつ一步一步取り組んでいけたらというふうに考えています。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ぜひ、そのようにお願いいたします。また先日来、浜坂高校の支援ということでいろんな御意見が出ています。もちろん私も浜坂高校は何としてもというか、いい学校ですのでこれからも存続していただきたいですし、どんどん希望者が増えてほしい、盛り上げてほしい、大切にしていきたいと願っております。そうした浜坂高校の生徒に、このおいしくて新温泉町の愛情のたっぷり詰まった給食を高校生へ提供してはどうでしょうか。いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今御提案いただいております浜坂高校への給食の提供ということでございます。職員とか学校が協力し合って、センターのほうでは現在安全・安心な給食を提供するために、異物混入の防止だとかいろんなことを細心の注意を払いながら取り組んでおります。その中にありまして、アレルギー対応ということがあります。アレルギーをお持ちのお子さんについてもアレルギーの対応食を提供したり、本当に給食をいろんな形で食べていただけるようなこともしております。健康管理にも留意しながらしておりますので、浜坂高校の提供ということになりますと、毎日の食数の報告だとか食物アレルギーの対応、それから給食の配膳の問題とか、いろいろ施設のことや高校との連携、学校の協力がなければできないところもたくさんありますので、検討課題、協議、検討という方針で町長部局との連携も取りながら、予算も絡んでまいりますので、浜坂高校との連携も含め考えていかなければならないかということで考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 今までなかった事業ですので、新たにといえばそのようにいろんな問題が山積していると思います。また、いろいろ取りかかるときっていうのは本当に不安でもあると思うんですけど、お母さんっていうのはやはり子供の食事っていうのは気を遣いますので、お弁当作ってあげたいお母さんは作ってくださったらいい、でもちょっと大変だなとか、おいしかった給食、あの頃はよかったなとかいう子供たち、希望する子供、ここの味を知ってる子供たちが浜坂高校に多く行きますので、そういう子供たちがもし希望すれば、親御さんが希望すれば提供していただけるような、そうい

ったような道筋をつければ多分、私立の高校ではあると思いますけど、公立の高校でこういったような取組ってというのは本当、大変少なくなってるとお聞きしましたので、と  
うかないと思いますので、学校の中でランチルーム、浜坂高校もランチルームずっと  
長いことして多くの人が利用してたんですけど、耐震のときになくなってしまって今は  
ランチルームもなく、現状はちょっと分かりませんが、途中で買えるお店もなくどう  
してるのかなって思うところがありますので、お母さんたち、忙しいお母さん多いで  
すので、給食があればなって思っておられる方も、私も内心思っておりましたし、そう  
いったような方がいたら、ぜひ提供して下さったらありがたいなと思っておりますので、  
大変とは思いますが、引き続き御協議お願いいたします。

では、次の子育て世代の移住・定住支援と施策についてお伺いいたします。子育て支  
援はこの4年間で本当にたくさん、昨日も町長言っておられましたけど、たくさん新た  
な支援、増やしていただいた支援っていうのをさせていただきました。特定不妊治療費助  
成や、子育て世代包括支援センター、ハローベビー and パパママサロンなど新規です  
し、新温泉町出生祝品贈呈事業は本当に大幅に公約どおりというか、最初は難しかった  
ですが、ちゃんと公約どおりたくさんしていただけるようになりましたし、産後ケアの  
事業、乳幼児紙おむつ等の購入費の助成など本当に喜ばれております。乳幼児等の医療  
助成事業も高校生までと大変広がり本当に喜ばれていますし、利用者も多いとお聞きし  
ております。延長保育もですし、認定こども園にしましても給食費が無料になったりと  
好評を得ています。ですが、以前に比べればよくなっているように見える子育て支援も、  
移住・定住の方たちはどうしてもいろんな町を見比べます。そういったときに、まだち  
ょっとどうしても比べられてしまうとまだ足りてないところというか、負けてしまう  
というか、勝った負けたではないんですけど、もうちょっと支援があればなというところ  
もあると思うんですけど、そういったようなところへの充実を求めますが、いかがお考  
えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。この新温泉町は、合併した平成17年、出生率、  
兵庫県下で1.8というふうなことで、香美町と並んで1位、2位を争っていました。そ  
れから、当時生まれた赤ちゃんの数も、約130名。昨年が54名、赤ちゃんの生まれ  
た数が人数が54名でありました。特殊合計出生率は1.43と、これは平成27年のデ  
ータですけど、1.43。兵庫県の平均が1.45でしたから、県下の平均よりも下がった  
ということで大変この子供の数が減っている、出生率も下がっている。そういう大変将  
来を担う子供たちにとって我々の町にとって、次代を担う子供たちが数が減るとい  
うことはいろんな面で心配をいたしております。議員御指摘のように、この子育て環境を充  
実させるということが将来の町にとって希望が湧いてくる、まちづくりにとって元気が  
出る、そういう視点でこの子育て環境の充実を図っていきたいと考えております。

当町では令和2年3月、昨年、第2期の新温泉町子ども・子育て支援事業計画を策定



いたしております。その際、アンケートを取らせていただきました。その回答で一番多いのが、親子が安心して集まれる公園と屋外の施設を整備する。それから、親子が安心して集まれる保育所、幼稚園の園庭を開放、充実すること。それから、保育所、放課後児童クラブ等の働きながら子供を預ける施設を増やすことなどが上がっております。こういった親御さんの要求、要望が上がっております。これ以外にもたくさんあったわけですけど、皆さんがそういった子育て環境をいかに充実を図って町の魅力を高めていくかということが大きな課題であると思っております。今年、牧場公園において大型遊具の設置などもさせていただきました。県の強力なバックアップの下で大型遊具の設置をさせていただきました。皆さんの要望に応えることによって町民、それから移住・定住の方々に選ばれる子育て環境を構築していきたいと考えております。先ほど、議員からもいろいろ子育て環境、子育て施策の御指摘がありました。引き続き頑張っていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） おっしゃるとおり、本当にいろいろ努力していただき、私も公園等いろんなことを言ってきて、牧場公園、本当に多くの方が喜んでくださっていますし、やはり小さな公園をと何度も言ってきました。今もお聞きしたら、やはりお母さんたちの声もそういう声が多いということで、引き続き言わせていただける機会があれば、小さな公園をどんどん造っていただければと思っておりますし、今現在住んでいるお母さんたちが幸せ感を感じてくださらないと次がないというか、広がっていかないと思います。移住・定住にももちろんつながらないのですが、子供の減少っていうのはやはりお母さん、お父さん、保護者、おじいちゃん、おばあちゃん、そういった皆さん、地域の方たちの子育ての喜びというか、喜びがどれだけ感じられるかといったようなことが大きく影響してくるのではないかと思います。どうしてもここら辺は大きな遊具がないので、遊びに行くのが遠くに行かないといけないとか、そういったようなことになりますので、できれば逆にこの町に多くの方が遊びに来ていただけるような町になればいいなと思っております。また、先ほども出ていましたようにこども園、こども園の充実がやはり大切な柱になってくると思います。この町の子育て環境のシンボルとして、こども園の整備を一刻も早くスムーズに進めていただくことが、この町にとって大切な子育て支援の大きな柱ではないかと思っております。そのために努力していただけるとありがたいと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 特にこの浜坂認定こども園では、この4年間なかなか進捗が図れなかったということで大変反省をいたしております。子供たちが本当に行きたくなるようなこども園、そして地域の方々が本当に喜んで賛成をしていただける、そういったこども園の改築に向けて力を出していきたい、そのように考えておりますし、そのように取り組んできたつもりであります。子供たちがやはり安心して行ける、そして地域が

喜んでいただける、そういう方向でこども園の在り方は推進を図っていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 町長のこども園に対する努力は大変なものだったと感じております。一刻も早い整備を心待ちにしておりますし、そのことが進むことによって子育て環境、一段と盛り上がることを目指しております。先日も町長が言っておられた、日本一のこども園を目指す、それを先ほどの給食も日本一ですけど、これも日本一を目指して努力して、このこども園があるからこの町に行きたいって言ってもらえるぐらいのまちづくりをされてはどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜田議員の御指摘どおり、日本一の、県下一の保育園を目指して頑張りたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ぜひ、そのようにお願いいたします。先ほどの子育て支援の中でもありましたが、不妊治療の助成がこの町はございます。妊娠は本当にありがたいことなんですけど、近く、この町内、郡内、美方郡内に産婦人科がございません。そういったときに、妊娠はうれしいことなんですけど、それと同時に不安、無事に妊娠、出産するまで不安もついてきます。前回もお願いしましたけど、マタニティータクシーとか何かあったときの、それ以外にも支援を考えていただけるとお母さんたちの安心には必要だと思うんですけど、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当町には産婦人科がないわけなんですけど、昨年2月、子育て世代包括支援センターを立ち上げております。助産師の相談、訪問ができる機会を設け、妊娠、出産、子育てに関して不安を軽減できるよう支援をいたしております。この子育て世代包括支援センターの事業として、サロン事業を展開、妊婦、また妊婦同士の交流、それから先輩の助産師などからの出産に関するアドバイスが受けれる、そういった個別相談の対応もさせていただいております。また、産後ケア事業として、宿泊型として助産師の支援を受けながら宿泊ができ、不安の軽減を図ることができる事業所と委託契約をしています。それから、母子手帳交付時または交付後、保健師による面接相談の実施、早期支援が必要な家庭の把握に努め支援を開始をいたします。それから、特定不妊治療費助成制度、これは国も充実を図っております。それから、妊婦検診費助成制度も実施をいたします。数々の支援策を通して、出産に対する妊婦、妊産婦に対する支援を行っていきます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） とても充実されつつあるというか、とても充実していて、本当以前に比べるとたくさんそういったような窓口が増えてきてありがたいと感じてお

ります。もう引き続きそういったようなことをもっとPRされて、この町のよさとして子育て環境の充実を望みます。やはり、救急のときがございませぬので、そういったときの不安も取り除くような努力もしていただければと思います。また、それでいいかな、そのようにお願いします。

近隣地区への通勤手当の一部、通勤手当じゃなくて、通勤に関して一部通勤を応援する支援策というのを考えていただければと思います。朝来市では、年齢制限がございませぬけど、UターンやIターンされた方に、30キロ以上通勤される方に最大月1万5,000円の補助、助成をされています。この町はとても、鳥取市、豊岡市、香美町、養父市等に1時間以内で通えますので、その辺りまで勤めておられる方が多いと感じています。実際、浜坂道路が豊岡から鳥取までつながれば、本当にここはベッドタウンとして最高の場所じゃないかなと思っております。そういったときに、若い人たちが帰ってきやすい、どうして帰ってこないのって言ったら働く場所がっていう声がどうしてもよく聞かれます。そういった人たちが少しでも働きやすくなるような支援策としてそのような応援助成を考えていただけるとありがたいのですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先ほど、子育て包括支援センター立ち上げが昨年と言いましたが、今年の2月からであります。訂正をいたします。

今の御質問であります、朝来市がUターン、Iターンの方々に通勤補助をしているということですが、当町はまだそういう、そこまで至っておりませぬ。通勤手当っていいですか、通勤費は基本的には事業主が支払うということで、ほぼほぼ事業をされている方々の事業所においては、通勤費はそこが払っているという実態があります。この朝来市の例を議員から提示をされたんですけど、当町におきましても鳥取に相当数通っています。豊岡にもかなり通っている方が多いようであります。今後、高速道路も充実っていいですか、工事が始まって距離もかなり短縮をされます。時間も短縮されます。今後検討課題として見直すかも分かりませぬけど、検討をさせていただきたいと思ひます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように、引き続き検討をお願いいたします。やはり新しい、新しいというか新卒者の方が勤めるときに、そういったようなところも考えてくださると優しい町というか、そういう町のイメージになりますし、どうしても都市部とは違ひ、自動車を持っている方たちばかりではありませぬし、いろんな条件もありますので、そして昨日も言っておられましたけど、この町内にはなかなか事業所が来てくたさらないというところもありますので。もしくは、自分で町内ではよう起業しなくても豊岡市や鳥取市で起業を考えたりされるときには、そういったようなこと、手当てが助成があれば、またもう少し視野が広がるのではないかなと思ひ提案させていただきましたので、引き続き御検討をよろしくお願ひ、期待いたします。

次に、奨学金、若い人たちへの奨学金を考えていただけたらどうかなというような御提案をさせていただきます。先日の新聞で、北但西部森林組合が若者の林業を学んで、その奨学金制度を創設した。学んで帰ってきたら何年か勤めたら、それを返済は免除されるというような奨学金制度を創設されたという記事がございました。当町においても、奨学金を林業に限らず、医療ではあったと思うんですけど、医療以外でもいろんなことで奨学金出して、何年か新温泉町に帰ってきて働いてくれたら免除するとか、そのような支援策を考えていただければ、帰ってきてくれる子供たちが、回復率が上がるのではないかと思います、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私も、ほかの町でこういった制度をやっているということを聞いております。Uターンした方々を中心に、帰ってくるということを約束に奨学金を出すという制度があるという町もあるようであります。当町では、そういったことはやってないわけですけど、今後検討はしたいと思います。ただ、やはり今ある、何ていいますか、事業所なり、事業所、商売をされている方々が継続できるような、今ある方々の支援策、さらに息子さん、娘さんがUターンできるような、そういう制度が構築できないか検討をしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） おっしゃるとおりだと思います。奨学金だけでどうこうではない問題だと思うのですが、先日の浜坂高校のアンケートでも地元に戻ってきたいという答えをしてくださった子供たちがたくさん、割合が高かったと校長先生も言っておられました。ぜひ、ぜひ、本当に帰ってきていただきたい。どんな方法、いろんな方法を考える、その一つとしての提案ですので、町長申されたとおり、いろんな提案を考えてくださることを期待しております。

それでは、次に高齢者の暮らしと生きがいについてお尋ねさせていただきます。高齢者は、高齢者の方たちというのは大変いろんな経験、体験をもちろん積んでおられまして、本当に人生の先生といいますか、すばらしい方たちだなといつも感心させていただいています。そういったような経験や実績を生かしたまちづくりというのを考え、今もしてはくださってますけど、もっと、もっともっと今の高齢者の方たちが生きがいを感じる新温泉町になればと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新温泉町では、高齢者大学を中心に高齢者の方々、本当に大活躍をされているという具合に考えております。さらに活躍をしていただくためにはどうあるべきか、それは、やはり活動をすることによって、社会的に貢献できている、認められている、そういう活動が必要ではないかと思っております。いろんな作品展見て、やはり、あ、この作品すばらしいな、そういうお褒めの言葉をいただくとか、やっぱりそういうふうな場をどんどんつくって行って、ボランティア活動されている方々もたく

さんいらっしゃいますし、そういった方々の活動を認めて、やはり支援する、そういうことが大事だ。そこにはやはり声を掛け合って高齢者の方々、この若い人も含めて、我々も含めて、活動やいろんな事業に対して目を向けていくということが大事だという具合に考えております。具体的には、各地区公民館での活動をはじめ、先人記念館以命亭、それから八田コミセン、それから加藤文太郎図書館のいろんな活動をやっていただいております。これ以外にも、講習会、講演会、それから学習会、様々な事業の中で高齢者の方々の活躍の場をできるだけ広げていきたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） おっしゃるとおりです。この町の高齢者の方たちは、本当に元気で知識も豊富ですばらしいと思いますし、そのようにいろんな活動をされています。ですけど、ですが残念なことに今のグループ、ボランティアグループとかどうしても会員が限られていて、異年齢との交流、新しい若い、若いというか、次々に加入というか、異年齢の交流が少ないのではないかと思います。どうしても今の、どの会もなんですけど、今してくださってる方たちが役員が難しくなると会の存続を考えないといけないというような実態もありますし、そういったようなときにやはり異年齢の幅広い交流、今高齢者は高齢者で本当にすばらしいつながりを持っておられるんですけど、そういったところに入っていきっかけをもっと、あるのはあるんですけど、どうしても、あると思うんですけど、まだちょっと十分に入っていく窓口が見えないというか、もっと気楽にハードルを下げるとするか、広がる、幅の広い交流、高齢者だけではなく、やはり若い人たちにちょっと行ってもらったり、若い人たちも高齢者からちょっと教えていただいたり、応援していただけるっていうのが本当に人生の中でとてもありがたい一言があったりとか、そういったようなきっかけになりますので、そういう幅広い年齢の交流の何かアイデアっていうか、そういったようなものがあればもっと広がるのではないかなと。もっと充実感も感じていただけるのではないかなと思って提案させていただいたのですが、そういうような点ではどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 例えば、いきいき百歳体操、だんだん参加が減ってきているということも聞いております。いろんなグループやいろんな組織があるわけですけど、会長をしたら寿命が約3割延びるとか、それから役員をしたら2割延びるとか、実は社会的な参加をすることによっていろんな刺激が長寿命につながっていくということも実際にあるということも聞いております。高齢者ばかりでなしに、やはり百歳体操でも役場職員の若い職員が行ったら、またイメージも変わってきて参加も増えるのではないかと思いますし、若いの方々、それから高齢者の方々との交流の場をどう増やしていくか、それによっていろんな会の在り方も生き生きしてくると思っております。そういった点では、今の組織、いろんな組織、参加がどんどん減っているという組織もあるようでありますので、そこは知恵が必要かなと思っておりますので、生涯教育課のほうとも相談

しながら増やしていく努力をしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように思っただけなのは本当にありがたいです。百歳体操は実際とても生き生き皆さんされてますし、ぜひもっとどんどん本当に増えたらいいのになと願っておりますので、そういったような生きがい、コミュニティー、フレイル予防、全てが含まれていますし、大体社会活動自体がそういったようなところ、ことがあって、町長言っておられるように寿命が延びるとか、健康になる、そういったような利点もありますので、ぜひ高齢者の方たちのますますの御活躍というか、御活躍、経験を生かした生きがい生活を送っていただければと思います。それに関連して、やはり働きたい、まだ本当に今の高齢の方、お元気ですので、働きたいという声もよくあります。ですが、なかなか働く場所がやはりない、難しいということでシルバー人材センターに登録料を払って登録したんですけど、年に1回仕事があるかないかでしたというような声があり、もうちょっと自分に、登録してしまうと待ってないといけないですし、ほかの仕事が取りにくくなってしまおうというようなこともありましたので、そういったようなシルバー人材センターに仕事を提供する、そういったようなきっかけがあれば、もうちょっとシルバー人材センターの活用も働いてくださる方が増える、そしてまた申し込むというか、お仕事を依頼される方が増えるといったような好循環が生まれるような仕組みになっていただけたらと思うのですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本来、シルバー人材センターは高齢者の働く場を提供することによって地域貢献も含めて、地域の活性化に資するというのが大きな目標であります。現在、シルバー人材センター、この3月、今年の6月現在で登録会員数が283名であります。令和元年度323名でありましたので、少し減少、ここでも減少をいたしております。事業実績を見ると、昨年度請負の委任された事業が1,487件、それから派遣事業が28件、合計1,515件となっております。就業された延べ人数として1万9,932名が就業された延べ人数となっております。そういった状況の中、入会、募集をどんどんさせていただいております。入会説明会を年間19回をさせていただいております。会員の増強、高齢者の働く場、生きがいの提供というふうな面も含めて、この募集に努めております。そういった現状です。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 従事者研修会とかも行われているということで、家事援助スタッフ大募集、従事者研修会の御案内ということで努力されているのはよく分かりますし、今の説明でよく分かったのですが、やはり仕事がないと収入につながらないと登録者も減ってってしまうっていう現状だと思います。そういったようなときのために、ためにというか、そういったようなことにならないようにお仕事を行政のほうから回していただけるとか、ほかの企業から何かお仕事を定期的なものがシルバー人材セン

ターの方たちが活用、生き生きと働けるような定期的なお仕事があればというふうに願っていると思うんですけど、そういったような点ではどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 例えば、シルバー人材センターにお願いして、これは財産区のほうでありますけど足湯の定期的な清掃、荒湯の清掃などをしていただいております。それ以外にもシルバー人材センターからは町に対して仕事がないかというふうな要望も受けておりますので、極力そういう仕事をつくっていきたくて考えております。問題点として、例えば植木の剪定などのように専門性の高い仕事は対応できる会員が少ない、そして除草や草刈りなど一般作業は希望する会員は多いわけですけど、こういった特殊な作業に対する専門性の高い作業に対する人材がなかなかいないというのが課題であります。それから、現在派遣事業として子育て支援、それから家事、介護の支援をする、家事援助サービスに力を入れております。そういった就業機会の確保に努めているということでもあります。そういった対応をやることによって、できるだけ就業の機会をつくっていきたくて考えておるようであります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） では、そのように引き続き努力していただけることを望みます。また、普通の企業に雇用をお願いした場合も、高齢者には補助金がつくようなんですが、そういったようなことがあまり知られてないようにも思うんですが、そういったようなことをもうちょっと周知していただいて、高齢者の働く希望というか、機会を増やしていただけたらと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 高齢者に高賃金を払うって意味ですか。

○議員（5番 浜田 直子君） 賃金の補助。

○議長（中井 勝君） そこでやり取りしないように。

○町長（西村 銀三君） ちょっと質問の趣旨があんまり分からないんですけど。

○議長（中井 勝君） じゃあ、再度質問を。

5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 香住のハローワークで雇用をお願いした場合、高齢者の、年齢は忘れちゃったけど、何歳か以上の方を雇用した場合には、幾らか月々に補助金が出ますよというチラシを頂いたことがあるんですけど、そういったようなことっていうのはちょっと、知らなかったの、そういったようなことももうちょっと広く周知していただけたらなと思うんですけど。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 詳しい私も知識はありませんので、担当課より答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 水田商工観光課長。

○商工観光課長（水田 賢治君） 今御質問の高齢者の雇用に対しての月々の補助金というのは、ちょっと私のほうでも把握をしておりません。また調べまして、周知のほうを徹底してみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） では、都市部の会社を退職された方たちが、新温泉町にまた帰ってきてくださっているというありがたいお話がたくさんあります。そのような方からの提案を聞かせていただき、それをこのまちづくりに活用していただくようにフォーラムやそういった協議会のようなものを立ち上げて、いろいろなアイデアを皆さんから受け付けるというか出していただくというのは、このまちづくりに対してプラスになると思うんですけど、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基本的にまちづくりには町民の意見がとても大事であると考えております。就任した当初から、1年目は小学校区ごとに懇談会、町民の意見を聞く場を持たせていただきました。2年目は女性を中心とした意見、懇談会の場を持たせていただきましたし、3年目、去年は事業所、民宿であるとか、そういった事業所の方々の意見を聞く場を持たせていただいております。今年度はまだやっていないわけでありまして、いろんな町民の意見のみならず町外の人々、特にいろんな経験をされて都会からUターンされた方々もいらっしゃいます。そういった方々の意見をまちづくりに生かす、経験を生かす、それから外部から見たいろんなまちづくりの課題であるとか問題点を御指摘、提案いただく、そういったことは極めて大切だと思っております。基本的に、やはりまちづくりは皆さんの意見を聞いて、常に修正を図りながら方向を打ち出していくというのが大事だと思っておりますので、そういったUターンの方々の、UターンやIターン、Jターンの方々の御意見を聞く、そういう機会も今後検討をしてみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように、ぜひ進めていただきたいです。

では、次に男女共同参画で、少子化・人口減社会を豊かに、住みよいまちづくりに移らせていただきます。子供たちの未来に向けて、行政、教育、町民が一体となって男女共同参画の実現を目指した豊かな生活のできる社会づくりについて、そのような方向で進んでいきたい、いただきたいと思います。男女共同参画は、女性だけではなく、男性にとっても住みよい、暮らしやすい社会をつくるためのものと感じています。そのような生活を実現するために町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 男性と女性はバランスは五分と五分であります。そういった意味で男女共同参画、当然の法律ができたと思っておりますし、一方で新温泉町をはじめ、日本全体を見るとまだまだ女性の役割というのが、本当に女性の持つ力といいますか、



いろんな視点でまちづくりをするという点では、まだまだそうになってないという具合に考えております。女性参画、政治の場でも町会議員は浜田議員ただ一人という実態もあります。やはり、女性の目線でまちづくりを考えることによって男性社会中心でなく、バランスのよいまちづくりができるという具合に考えております。そういった視点で、この男女共同参画という制度を念頭に置きながら、今後も女性活躍の場をつくっていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） とてもありがたいお言葉、感謝いたします。まちづくりの基本に男女共同参画、今言われていますSDGsの5番目のジェンダー平等を実現しよう、そういったようなものを積極的に取り組み、人権を尊重した暮らしやすい町となるよう求めています。豊岡市では、ジェンダーギャップ対策室というのが立ち上げられていて、日本の中でも大変注目されています。養父市もそれに続きたいと言っておりますし、ほとんどの市、町では男女共同参画に積極的に取り組んでいます。せっかくというか、豊岡市はこのように全国的に注目を浴びていますので、この地域一帯、但馬地域一帯となって男女共同参画を目指したジェンダーギャップのないというか、住みやすい、男性も女性も一人一人が尊重される住みやすい、暮らしやすい社会を目指して頑張る努力をしていただきたいと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 豊岡市の例を言われたんですけど、そういった取組は、先々月ですか、NHKでも放送をされていまして。私も見ていたんですけど、参加された女性の意見の中にはこの制度に対する取組方法についての疑問点もあったようであります。基本的な方針は、ギャップをなくするというのは正しいわけですけど、何ていいますか、スムーズな流れ、これまでの日本社会がつくってきた思い込みといいますか、慣習的なものをいかに打破していくかという大きな課題があるという具合に考えております。一人一人の、男は男、女は女の役割、そういったところが少しずつ考え方が変わってきつつあるわけですけど、一挙に変わるということは難しいわけですけど、こういった男女共同参画の学習会などを通してジェンダーギャップの解消を、少しずつ解消をしていく必要があると考えております。それにはやはり地道な努力が必要かなということを思います。先日も男女共同参画の委員会、それから研修会、講演会がありました。参画をさせていただいたんですけど、そういった研修会、講習会、講演会をもっともっとすることによって、意識の啓発、意識改革につながっていくと思います。それにはやはり男性の意識をもっと変えないといけないかなという具合に感じました。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ありがとうございます。もうおっしゃるとおりだと思います。豊岡市の取組はすばらしいのですが、じゃあ、そのままこの町でっていうわけにはいかないのは重々分かっておりますし、豊岡市は豊岡市の取り組み方、新温泉町は新

温泉町で人権に対してはとても、もちろんですが、進んでいましたし、男女共同参画につきましても本当に進んでいました。男女共同参画プランも早くから立ち上げられ、いつも見直しを毎年している町っていうのはこの町ぐらいでしたし、常に一生懸命取り組んで、人権の中で取り組んでくださっているなというのは感じておりました。

先ほども町長申されたように、やはり人権意識を変えるには講演であったり相談窓口であったり、男女共同参画センター的なものが求められています。男女共同参画プランの中でも当初からいろんな改革項目としてセンター設置を求めています。何度プランを上げてみてもそこだけは進まず、このように世の中が大きく変わり、男女共同参画の仕事というか、テーマに沿った活動はどんどん増え、大変そうだなというのを感じています。そういったような中でもセンター設置っていうのがやはり一番求められていますので、そういったような場を増やしていただくことを、場所、場を増やしていただくということもこの町にとって必要と思われまますので、豊岡市と同じことを求めるわけではありません。新温泉町ならではの進み方、歩み方で男女共同参画を進めていただければと願っております。どうでしょうか、センター設置についてお伺いたします。

○議長（中井 勝君） 浜田議員、議場ですから、願ったり、ありがとうございます、あまり乱発し過ぎるんでちょっと注意しますが、ここは決してお願いするところでも望むところでもありません。一般質問です、わきまえて質問をお願いします。

答弁、西村町長。

○町長（西村 銀三君） 男女共同参画センターの設置であります。そういった設置の場も必要かも分からないんですけど、何よりも意思決定の場、例えばこういう議会の場に女性が増えていくということが、私はまちづくりにとって最も重要なところではないか。例えば区長も女性区長になっていただくとか、そういう意思を決定する場の参画が女性の、何ていいますか、従来型のまちづくりから大きく女性目線、それから、女性目線ということは生活者目線、これがもっとも政治の場、行政の場に反映できるという具合に考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように期待いたします。

それでは、次に、コロナ禍における地域産業の経済支援についてお尋ねいたします。コロナ禍の長期化により厳しさが増えています。地場産業の具体的な救済、支援を求めます。特に支援のある業種とない業種との差が広がっているように感じられます。支援の少ない業種、そういったようなところへの支援をもう少し増やすべきと考えますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨年度はコロナが始まって、たくさんのコロナ支援策を打ち出させていただきました。国の交付金、約5億5,000万円を使わせていただいて、98の支援事業をさせていただきました。水道基本料金の減免をはじめ、いろんな制度で支

援をさせていただきました。今年度も引き続き、現在も、今日も緊急事態宣言の真ただ中ではありますが、事業者によっては極めて厳しい事業者もあります。それから、8割ぐらいは売上げ、収益も戻ってきた、そういう業者も一部にはあるようであります。そういったところをさらに、生活支援も含めて、この9月定例会には1億円のプレミアム商品券の事業を再度やらせていただきたいということを提案をさせていただいております。また、同時に、特に宿泊業などでは大変厳しい状況が続いております。宿泊者に対する5,000円の補填、補助、助成をこの9月定例会に提案をさせていただいております。宿泊業者の方々には背景にいろんな業者が控えています。納入業者がたくさんあります。クリーニング業、それからお土産業など、たくさんの方々が困っているという実態もありますので、そういったところを何とか支援を図っていきたい、そういう思いで現在取り組んでおります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） スーパーワクワク元気券というのはまた後ほど質問させていただこうと思ってるんですが、それ以外の具体的な施策っていうのは去年よりも厳しい状況になっているんですが、目に見えたものというのがほかにはないんですが、そういったようなもののお考えはどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 観光協会などから水道料金の減免なども御提案、要望をいただいておりますが、今のところその2点で、この9月定例会でお願いをいたしております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） では、これから考えていただけるというか、考えているということでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） はい、考えています。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それでは、スーパーワクワク元気券についてお尋ねいたします。とても好評でした。ですが、好評過ぎて購入できなかった方が多いと。そういったようなことで、前回の購入経路、購入時間、購入の日時、平日だけではなく、やはり時間外じゃないと、お勤めされて買えない方とかもいらっしゃいますので、そういったような配慮、再考を求めますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 7月1日に売り出されたプレミアム商品券であります。昨年までは2割のプレミアムということだったんですけど、今年は3割ということにさせていただきました。総額2億円、2万セットをあっという間にといいますか、即日完売というふうな結果になりました。買いたくても買えない人がたくさんいたということを聞いておりますので、そういったところを考えた上で、販売方法、これまでは1人5万円、

5セットまで、そういう販売方法でありましたが、今後は、次の発行については見直しをしたいという具合に考えております。広く、できるだけ多くの方に行き渡るように、特定の方のみならず、広く行き渡る、そういう見直しを図った上で予定をしたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 前回購入された方というのもまた求められるんですか。

○議長（中井 勝君） 浜田議員、もうこれ次の補正予算の審議に入りますので、事前審議になるみたいですので、ここの部分は割愛をいただきたいんですけども。別の質問があれば。

5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） では、またそのときにお伺いいたします。

4年間、町民の声を行政に伝えたいという気持ちで活動させていただきました。町長が先日述べておられた、行政と議会は両輪であるということで、それは本当に大切ですが、町民、地域があってこそその行政、議会だと思えます。そうすることでどんどん町が進むように願っております。町長、それについてどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 行政は執行機関、それから議会は議決機関、そういったことをきっちりと認識を持った上で対応をさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 町民の思い、地域の願いというか、地域を大切に、そのように進めていただけるようお願いして、以上で質問を終わらせていただきます。

○議長（中井 勝君） 補足だね、先ほどの質問の回答。

水田商工観光課長。

○商工観光課長（水田 賢治君） 先ほど浜田議員から質問がありました高齢者の企業支援の関係でございますが、2021年4月に施行されました高年齢者雇用安定法に伴いまして、65歳超雇用推進助成金というのが厚生労働省から出ております。これは3コースありまして、1つとしましては、65歳を超えた継続雇用をされた企業に対する支援。65歳、それから66歳から69歳への引上げ、それから定年の引上げ70歳以上、または定年の定め廃止に伴いまして、それぞれ助成が受けられるというものがあります。それから、高年齢者無期雇用転換コースなど、中小企業に対して48万円の交付金があったりとか、もう一つは、高年齢者評価制度等雇用管理改善コースということで、一部経費の助成を行うような支援があるようです。これはまた町のほうからもしっかりとPRをさせていただきます、高齢者の雇用のほうに努めていきたいと考えております。以上です。

○議長（中井 勝君） それについての質問はいいですか。

○議員（5番 浜田 直子君） はい。

○議長（中井 勝君） 以上で浜田直子君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。30分まで。

午前10時15分休憩

午前10時30分再開

○議長（中井 勝君） 休憩を閉じ、再開いたします。

次に、14番、谷口功君の質問を許可いたします。

14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 通告に沿って質問をいたします。3項目を通告をいたしております。よろしくお願いします。

広島平和記念式と核兵器禁止条約についてであります。8月6日の広島平和記念式は、昨年に続いて今年もコロナで規模を縮小して実施されたと思いますが、町長はどうなされたのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今年も新型コロナウイルスの感染拡大によって参加を遠慮してほしい、極めて少ない人数でやりたいという、そういう御指摘とございますか、そういう状況でありまして、昨年に続いて今年も参加を辞退いたしました。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 当日、広島市長の平和宣言、子供代表の誓いの言葉、菅首相の挨拶がなされておりますが、町長はどのようにお聞きになったのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 広島市長の宣言でありますけど、毎年、核に対する脅威、核の恐ろしさ、それから、二度と核兵器を使ってはならない、そういったことを訴えていたと思います。今年度、欠席ということだったんですけど、テレビなど報道で見えますと、核兵器はあってはならない、それから一人一人が平和のためにできることを行い、平和の大切さを発信し続けることが大事だということ、それから、それを若者に発信しているということでもあります。対話を通じて信頼関係を基に、為政者に対して求めていくということ。それから、日本政府には核兵器禁止条約の一刻も早い締結を求めています。また、被爆者支援策のさらなる充実を求めています。そういったことで、まさに広島市長の宣言、一刻も早く実施、実行できたらいいなと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 私も子供代表の訴えには大変感動いたしました。冒頭の切り出しが、自分たちには大事な使命がある、被爆者の思いや願いを聞き、考え、平和の大切さを世界の人や次の世代に伝えなければならない、極めて力強く感動的に訴えていたと思います。市長については、町長も言われましたように、未来を担う若者に対し、

大切なことは、核兵器はあってはならないという信念を持ち、それを発信し続けることが大事だ、真剣に訴え、世界の為政者に対し、他国を脅すのではなく、思いやり、長期的な友好関係をつくり上げることが自国の利益につながるという人類の経験を理解し、核により相手を威嚇し、自分を守る発想から、対話を通じた信頼関係を基に、安全を保障し合う発想へ転換することを呼びかけました。この部分については極めて大事なことであり、日本国憲法に通ずる提起だというふうに私は受け止めました。そして、町長も言われましたように、核兵器禁止条約を有効に機能させる議論に日本政府が加わるようにということを厳しく求めています。本当に市長と同じ立場で核兵器廃絶の自治体宣言に加わっているという町でありますので、なおかつ友好関係を結んでいるというふうに町長もおっしゃっておいりました。ぜひこの町でもそういう姿勢で平和について、そして核兵器廃絶の運動にもぜひ取り組んでいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 率先して核兵器禁止条約の批准をすべきだと思っております。私も就任した、即、被爆者署名などをいたしております。意思表示をすることによって、核廃絶という運動を進めていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） それに比べると菅首相の挨拶というのは、本当にマスコミでも厳しく批判をされておいりました。原爆を原発と読み違えたり、行を読み飛ばしたり、そして核兵器禁止条約には一言も触れませんでした。日米の軍事同盟の下、アメリカの核の傘に庇護されているという立場をあまりにも頭の中がいっぱいになっているのではないかと。それ以上、考え、理解しようのない挨拶であり、態度ではなかったかと。この記念式典の後に被爆者の皆さんと対話をする機会があったわけですが、被爆者の皆さんは一樣に菅首相の態度に、唯一の戦争被爆国である日本政府こそが条約の署名や批准をすべきではないかと訴えているにもかかわらず、全くそのことには答えない。それどころか、そういう立場には立たないということを明言している。本当に被爆者の皆さんは落胆し、そして、一体どこの国の総理大臣なのかという厳しい批判をしておいりました。このことについては町長はどのようなお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 菅総理、いろんな面で人気凋落をいたしております。核に対する考え方、本当に、日米軍事同盟もあるのかもしれませんが、やはり日本が独立した国として、やはり自分の足で立つ、そういう基本が残念ながら見えてこないということ、それを核によって平和を守ろうという、そういう姿勢、軍備ではやはり平和は持たれない、本当に戦争しかない、そういう思いであります。戦争をしない国、戦争にならないように我々国民一人一人がきっちりと意識を持って、政治を監視するといひますか、政治に参画するといひますか、そういう姿勢が極めて大事だと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 次に、新型コロナウイルス感染症の爆発的な広がりへの対処について伺います。新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大により、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の対象地域が33都道府県に拡大されています。感染者数が過去最大を続けました。ここにきて少し落ち着いてきたようですが、第五波と呼ばれております。菅首相の言われる終息の明かりなど全く見えてまいりません。8月25日の首相記者会見で、明かりははっきり見え始めているという驚くべき楽観論を繰り返しました。感染し発症しても入院できない、医療現場は崩壊の危機と命がけで闘っている。入院治療をすれば救える命であったものが、突然、原則自宅療養と方針転換され、自宅で医療が受けられず、苦しみの中で亡くなる方が続いています。若い人へのワクチン接種も、炎天下、長い行列に耐えなければ受けられないという様子が報道をされています。こういう現実が突きつけられているにもかかわらず、平然と死者の数は少ないなどと述べる首相は危機感も責任感も反省もしていないのではないのでしょうか。どのように受け止められておりますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の御指摘のとおりだと考えております。国民の一人一人に対して本当に非常に冷たい首相の姿勢がありありとしてきたという、そういう感じがいたしております。明かりが見えてきたという反面、昨日、おとといの記者会見では、緊急事態宣言であり、こんなときというふうな非常に相矛盾した発言をされています。一体首相の認識というのはどこにあるのだろうか、自分の延命しか考えていないのではないか、そんな疑問すら湧いてきております。本当に国民一人一人の状態、そして医療の現実、そういうことが全く見えていない方だということを思っております。日本の国のトップとして本当にこれでいいのかなということを強く感じております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 医療崩壊の危機に瀕している大阪府であったり東京都など、大都市ほど医療の危機が迫っているということではありますが、その背景に、二十数年間、医療費削減のためだということと病院の統廃合、特に公立病院の統廃合が強引に進められました。また、伝染病は克服したと保健所を大幅に削減をいたしました。その結果として、この新たな伝染病に衛生的観点からの対応が全くできない、そして医療スタッフなどの人材不足、こういうことにつながって医療崩壊が加速をするということになっているのではないかと私は考えていますが、町長、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の御指摘どおりだと私も思っております。かつて浜坂には保健所があり、保健機能も備えておりました。今は障がい者の方々のそういった支援がメインになっておるようであります。そういった意味でも、県にも保健所の復活、従来どおりの業務の復活なども求めております。本当にこの医療体制、安心して住める、命と健康、こういった意味では、病院、保健所、もっと充実を図るべきだと思っております。

す。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） ぜひそういう方向で、町長としての役割を果たしていただきたい。つまり、県や、あるいは兵庫5区選出の国会議員であったり、あるいは政府関係機関への発言についてもぜひ貫いていただきたいというふうに思います。

そこで、今後、我が町でコロナ感染症の対応で必要なこと、大事なことというのとはどういうことだと考えられているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、特に幼児、小学生など12歳まで、それから12歳から19歳、こういった子供たちに対する感染が増えてきております。連日、新聞報道でもなされております。こういったところ、それから妊婦、妊産婦に対する早期のワクチン接種、こういったところを国も報道機関も含めて大きな問題点として上がってきております。妊産婦につきましては、町も対象者の方々に早期の接種をできるように医師会などとも連携を取りながら進めております。最近、子供たち、小学校、中学校でも感染が増えつつあるということを聞いておりますので、そういった対応策を早く構築をしたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 国でも我が町でも命を最優先にするという施策を選択するということが何よりも大切だと思います。オリンピック、パラリンピックを推進しながら国民に自粛を呼びかけても説得力を持ちませんでした。このオリパラ強行は、国民に誤ったメッセージを送ることとなり、感染拡大を招く重大な要因となりました。菅政権、与党の責任は重大だと思います。したがって、大規模なPCR検査と同時に安全なワクチン接種を迅速に進めること、感染リスクの高いところを中心に無症状者に焦点を合わせた検査を実施し、リバウンドを防ぐと。これは尾身茂政府対策分科会会長が指摘をされた言葉であります。こういうことが極めて今求められていると思いますけれども、町長どうでしょうか、PCR検査を我が町でも独自に進めるということは難しいでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私個人としては本当にPCR検査は全員に必要だと思っておりますが、現状では難しいな。やはり体調、発熱、熱が出たとか、そういった方々に対して、現状は本人の申出で—————などでPCR検査などをさせていただいておるのが現状であります。今の形をやっていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番……（発言する者あり）

いいですか。

○町長（西村 銀三君） 訂正。—————というのはちょっと取消しをさせていただきます。指定の病院などで検査をしているということでもあります。



○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 2つ目に、困っている人の全てに、そして、業種に補償を進めるべきだと。特に、自公政権が打ち切ってしまいました持続化給付金、家賃支援給付金の第二弾を求めるべきではないでしょうか。また、10万円の給付金支給、こういうことも低所得層であるとか階層を絞って、今もう一度実施すべきではないかと思いますが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 持続化給付金、1人10万円の交付金など、国会議員に要望を出したいと思います。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 3つ目は、医療機関への減収補填であります。コロナ患者の受入れの有無にかかわらずに、医療機関への減収補填、支援の強化が必要だと考えますが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） できる範囲内で県知事など機関に要望を求めていきたいと思えます。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） これについては、ぜひ、浜坂病院であったりささゆりなどにも、町単独でも実施をしていただきたいと思います。

次に、デルタ株による事態急変、学校、こども園、高齢者施設などが万全の対応が必要だと思いますが、どういう対応を考えられているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基本的には、三密を避ける、それからマスクをする、手洗いを徹底する、こういったところが基本であります。それから、県外への移動の自粛、こういったものが基本になっています。そういう方向で進めております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 結局、そこを突き詰めていくとね、自助努力をしなさいということになってしまわないか。だからこそ、先ほど申し上げた3つのことを徹底してやる、特に検査というのは欠いてはならない手だてだと思うんです。これまで感染しにくいとされてきた子供への感染が顕著に現れた、デルタ株ですね。10代以下の新規陽性者が7月半ばから4週間で6倍になった。学校やこども園、学習塾などでのクラスターが増えてきていると報告されています。感染が大人から子供に伝播するとされてきていましたけれども、子供から大人に伝播するという新しいパターンが報告をされています。したがって、本当にこういう施設での徹底した感染対策、予防というのが求められていると思うんです。具体的な対応策をお尋ねしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） こども園とか小学校、中学校での具体的な対応策につきましては、教育長のほうから答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） こども園と学校等につきましては、今までからずっと登園前には検温、それから健康観察していただいて登校園していただきます。消毒、それから手洗い等の徹底、三密を避けるようなことはしております。ただ、このデルタ株につきまして本当に感染力が非常に高くて、やはり日々、園や学校関係で生活してる中で本当にどこまでの対応をしていったらいいのかっていうことが、非常に私たちも難しさを感じております。本当に感染が広がらないために徹底して、そういった消毒も含めて丁寧に、子供たちが使うものについての消毒等も本当にやっておるんですけども、いや、本当にどこまでのことを私たちはしていけばいいのかというようなことが本当にいろいろ疑問や不安も持ちながら、今できることを精いっぱいやってるというのが現状でございます。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） ブレークスルー感染ということを御存じでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 存じておりません。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 担当の方もそうでしょうか。分かったら説明いただきたいと思いますが。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 担当も分かりません。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 最近ね、2回予防ワクチンを接種したと、しかし、数か月たつとその予防効果が低下してしまう。そして、感染したという報告がなされてきていると。それで、国際的には3回目の接種が有効だということが言われるようになりました。そういう中和抗体の活性化が低下する、そういう状況からブレークスルー感染という言葉が出てきているようであります。大体2か月ごとに6%くらい下がるということが言われております。4か月で84%、6か月经過すると78%。これはファイザー、モデルナ、両方のワクチンも大体同じような結果だと。6か月ぐらいで70から80%ぐらいに下がっていくと。したがって、2回接種しても感染するというのは、科学的にもそういうことだというふうに報告をされているようであります。我が町で3回目をとすることを計画を持つことがいいのかどうか、つまり、発展途上国にワクチンが届かなくなると。先進国ばかりがワクチンを使うなど、国連事務総長でしたか、WTOの会長でしたかが指摘をしていましたよね。ですが、実質、効果が低減してくれば、必然的にワクチン接種3回目が必要となるということが出てくるのではないかと。河野大臣が3回

目のワクチンを予約をするというようなことも報道でなされておりましたけれども、そういうことも検討をしておかなければならないのではないのでしょうか。いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 我が町のスタンスとしては、思いとしてはあるんですけど、これは国の役割でもありますので、3回とか効果につきましては国の動向を見ながら、我々もそれに基づいて行っていくということになると思います。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 学校に戻します。教室でのエアロゾル感染防止へ、短時間での全換気と不織布マスクを重視することが必要になると思いますが、どのような対応をなされているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 子供たちへの不織布のマスクについての奨励ということで、9月に入るまでに各保護者の皆様へのお願いをしております。できるだけそういった不織布のマスクを使っていただくようお願いはしております。

全館の換気についてですけれども、今現在も空気洗浄機だとかそういったことはして、各部屋においての対応はできるように、全室ということにはなっていないんですけれども、現在そういったことはしております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） これまで感染の主流は飛沫感染だと言われていたんですね。それで、マスクをしましょう、それでマスクも布マスクでも、それから、何でしたっけ、岩本議員がしているようなマスクですね、こういうものも効果があるというふうになされておりましたが、エアロゾルの感染がこのデルタ株で増えてきているということですから、やはり不織布マスクが一番効果が高いということが言われていますので、そのことに注意喚起をしてもらいたい。

それから、全換気というのは、短時間にしっかり換気をしましょうという意味合いです、教室の換気を中途半端にするんじゃなくて。飛沫であれば下に沈むと、重さがありますからね。エアロゾルは空中に浮かんでいると。だからしっかり換気をしないと、換気した意味がなくなるということでもあります。ぜひ徹底してもらいたいというふうに思います。

今、ドイツでは、児童生徒に週2回、自宅で行える迅速抗原検査をしているようであります。国の対応が必要になります。町長、先ほどからずっとお答えいただいている国の対応が必要ではありますが、そういう抗原検査キットなども市販されているようでありますから、そういうクラスターを防止するという意味合いでもそういうことを考慮していかなければならないのではないかと思います。いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 先ほどの全館の換気のこと、大変失礼しました。各学校では、

30分に一度、換気をするような時間を設けたりとか、そういったことの取組等はしております。

それから、抗原検査キットについてですけれども、本当にクラスターが出ないような対策として、こういったことが必要になるということも想定がされるかなと思いますので、そういったことも含めて、今後さらに子供たちの安心・安全な生活を守るための行動ということは考えていかなければならないと思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 学習指導要領を弾力化して、災害時にふさわしい柔軟な教育を保障することが求められるのではないのでしょうか。限られた授業時間の中で、重要な核となる学習内容を精選し、子供の成長に必要な行事も行えるように組み立て直すことが必要になる時期が来るかもしれない。対応をしていただきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本当にいろんな、昨年度からコロナのことにおいて各学校でも教育課程の見直し、行事等の見直し、いろいろしてきました。さらに、この今の状況においては、昨年度と違うところは、子供たちに感染が広がるってということがすごく大きく違うと思います。そういった中で、学習内容の精選、このことは常に、やはり見直していくという姿勢を持ちながら対応をしていく必要があるというふうに考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） コロナについての学びとコミュニケーションを大切にす姿勢が求められていると思います。子供たちは長い間、我慢を強いられ、様々な不満を募らせています。新型コロナウイルスと感染の仕組みを科学的に学び、受け身でなく、自分の頭で考え、納得して行動を変容、変えるという、自分たちの学校生活の前向きな話し合いを行うことこそ、この時期に欠かせない重要な学びではないのでしょうか。そうした学びの保障が必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、議員おっしゃったことです。本当にコロナ感染症についてやっぱり正しく知るということは非常に大事ですし、子供たちのコミュニケーションということで、非常に今後、今見えてなくても、やっぱり今後いろんな形で影響が出てくるのではないかとことは常に思っております。そんな中で、子供たちが前向きに、やっぱり自分たちで考えていくってこの学びはとっても大事だと思っております。各学校でカウンセラーの授業だとか、そういったことはしております。今後、前向きな話し合いということで、中学校、小学校でいろんな話し合い活動の中にそういった教育も学びも入れていく必要は、本当に今後やっぱり大人に向けても必要ではないかと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 例えば中学生であればね、周りの状況、環境を考慮して、クラブ活動を自粛を強要されていると思うんですね、今は。自分たちで考えて判断するというようなことというのは、本当に生きた教材ではないかと思うんですね。それを個人が勝手に考えるのではなくて、みんなで集団的に討議をして結論を導き出していく、そういうことをしながら子供たちの不満を積極的な方向に切り替えていくと。ぜひそこは力を入れて指導をお願いしたいと思います。

町長に最後に伺いたいと思います。町内での感染者が15名に増えたというふうに、昨日でしたか一昨日でしたか報告をされておりました。このことについてどういうふうに捉えて、どのように対応しようと考えておられるのか、この項の最後に伺っておきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 7月末の4連休以降、急速にといえますか、感染情報が増えてまいりました。つい8月の末までは5名という感染者の、新聞の資料では5名でありましたが、現在は10名。そして、その後また増えて15名ということで、大幅にこの1か月で10名増えてまいりました。この連休、それからお盆、こういったことで都会地から帰省された方々の接触があったということを聞いております。詳しい感染ルートは聞いていないわけでありまして。一方で、全く感染ルートが分からないという、そういう方もあります。こういったことで、いつ何どき感染が起きるか分からない、こういう状況であります。より一層、移動に関する注意喚起、それから、先ほども言いましたように、三密を避ける、手指の消毒、マスクの徹底、そのようなことを改めて町民の皆様求めて、PRをしていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） ぜひ公開できる情報は速やかに住民に伝達をして、子供たちだけでなく、町長から自粛をしなさいと言われて自粛をするのではなくて、自らの判断で自粛なり行動を律することができるような、そういう姿勢で進めていただきたいと思います。

次に、浜坂認定こども園の改築についてお尋ねをいたします。改めて、なぜ現在地がよいのか、町長のお考えを具体的に説明をいただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在地のメリット、いろいろあります。何よりも周囲に田んぼがあり、そして海があり、そしてすばらしい昔から流れている味原川があり、そして文化ゾーンとして以命亭があり図書館がある、こういった環境のすばらしさ、これが一番すばらしい点だと考えております。また、同時に、昭和52年から建築されて、なれ親しんだ場所で、53年から建築された以降、町民の皆さんがなれ親しんでおる、そういったこともあります。さらに、これまで自治区の方々から要望がなされておりますし、検討委員会などの結果を見ても、この地が最適かな、そのように考えております。

- 議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。
- 議員（14番 谷口 功君） 環境がよくて、なれ親しんだ位置で、そして住民の要望だということではありますが、これまで4年間この議論を続けて、私は移転改築という立場で議論を続けてまいりました。特に、その主要な要素というのは、安全性の問題であります。この4月に町の総合防災マップ、新しい防災マップが配布をされました。ここで大きな変化が出てきたのは、こども園の周辺の田んぼというのは極めて大きな浸水想定地域であるということにあります。こういう場所に、自然環境がいい、あるいは長年なれ親しんできた場所だということがあったとしても、町としてはこういう場所に乳幼児を預かるこども園を設置することは問題が大きいという議論を続けてまいりました。兵庫県の示したハザードマップの凡例では、5メートルから10メートルというふうになっておりますが、この総合防災マップでは5メートル以上という表記になっています。これは表記を町独自につくることは許されていることなんではないでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 県から出された資料を基にいろんな対応を検討してきたということですので、町が独自に数値を直すというふうなことはありません。
- 議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。
- 議員（14番 谷口 功君） 町長、ぜひ確認をしてください。この洪水土砂災害編のところですね、凡例ですよ、この部分、明確に5メートル以上と、浸水深5メートル以上というふうに表記されてるんです。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 県の指摘と違うという御意見でしょうか。どのように違うんですか、ちょっと分かりません。
- 議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。
- 議員（14番 谷口 功君） だから、先ほど申しあげましたように、5メートルから10メートルというふうに表記されてるんです。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 1,000年に一度、千一の場合のデータを記載せと、こういう意味でしょうか。
- 議員（14番 谷口 功君） いや、そんな議論じゃないですけど。
- 町長（西村 銀三君） ちょっと掲示されとる中身について、ちょっと担当よりお答えをさせていただきます。
- 議長（中井 勝君） 小谷町民安全課長。
- 町民安全課長（小谷 豊君） その防災マップについては、一応県から頂いた資料を基に作成しているということで認識をしております。ちょっと確認をしてみます。
- 議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。
- 議員（14番 谷口 功君） これは香美町の防災マップです、ハザードマップです。

歴然とサイズが違うんですね。昨日も議論ありましたが、我が町のこのマップは小さ過ぎて、どこがどんなふうに影響を受けるのか読み取りにくいという指摘がありましたけれど、全くそのとおりだと思うんです。香美町のはこういう大型、A3サイズですね。町境もわざわざ新温泉町というふうに大きく表記をして、町境の実態も示してくれています。なかなか親切なつくりになっています。その凡例ですら明確に、県の表記と同じで、最大浸水深は、香美町の場合は10メートル以上のところもあるようで、5メートルから10メートル、そして、最大浸水深は10メートル以上という表記になっているんですね。県の表記を見ても、我が町の最大浸水深は5メートルから10メートルというふうになっています。この質問するために資料を頂きました、こども教育課から頂いた資料の委員会資料にも、明確に浸水深は5メートルから10メートルというふうに凡例は表記をされていますね、こども教育課長のほうが御存じだと思うんですが。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 香美町との違い、表記の仕方に違いはあって当然だと思います。香美の見やすい見にくい、これも確かに香美町のは大きくて見やすいなということを今見させていただいて感じておるわけですけど、それぞれの考え方があると思います。現状そのように作っておりますので、そこは今後の参考にさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） そんなことが議論したいこと、主題ではありません。いや、実際のところ、ですから5メートルから10メートルの浸水区域に、そういう公共施設を本当に設置することが、将来にわたって大丈夫なのかということこそが一番議論したいことなんですね。我が町の地域防災計画で拾ってみますと、洪水想定区域の算定に用いた雨量が岸田川水系で24時間で518ミリ、それで最大浸水深が岸田川水系では8.4メートルというふうに地域防災計画には書かれています。それで、それを基準にして防災計画をつくったんだと示されています。ですから、5メートルから10メートルというふうにしておけば、8.4メートルの最大浸水深はカバーできると。そういう8メートル、10メートルという浸水をした場合、例えば住宅であれば2階がつかってしまいます。2階どころではないんですね。2階の屋根までつかってしまいますというふうにこのマップには書かれています。5メートルでちょうど2階の屋根がつかってしまいますというふうにこのマップにも書かれています。それが10メートルになるとどうということになるのかと。どういうふうに読み取ったらいいのかぜひ説明をいただきたいと思うんです。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 即答はできませんので、今後研究をさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） これまで町長は、繰り返し私この質問をしまして、十分検討してきたと。安全性も検討してきた。しかし、現在地なんだということをお答

えをいただいております。しかし、今のように、こういう基本的な数値でさえもわかり把握をされていないのに何を基に検討したのか。何を基に安全だと言えるのかということが問われるということではありませんか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 十分検討してきた状況であります。10メートルといえば、ほぼ役場の庁舎の1階部分がほぼほぼ来る水位であります。そういったところは十分検討しておるわけですけど、実はそういう10メートルというのは、保育園だけの問題ではないと。町全体の問題であります。町全体の全ての見直しが必要になってくる、公も個人の家も駅舎も水につかるわけです。そういった論議をすると、町がこれまでのつづけてきたまちづくりそのものの大幅な見直しということになります。千一のデータを基本にしてまちづくりをするのか、それとも五十、一のデータを基本にしてまちづくりをするのか。やはり大雨って、天気予報も発達しましたし、一定の現在地でも逃げることはできるという判断の下で計画を進めてきております。いかにも孤立するかのような、そういう表現の指摘もあるわけですけど、実際は大雨になれば、警報が出れば休みになるわけですし、十分対応はできるという、そういう考えの下で進めてるというのが実態であります。極論を言ってまちづくりをすると、ここには住めないということになってきます。そういうことでは、これまで培ってきたまちづくりの基本が崩れてまいります。ぜひそこは、洪水のみならず大雨で浸水するという視点でもって全てを論じるということは、まちづくりにとって偏った考え方になるという具合に考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 決して極論を私が述べているわけではありません。ハザードマップに書いてあることを指摘しているだけであります。あわせてお尋ねしたいのは、この最大浸水深の設定されている地域というのはどれだけあるでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） どれだけという根拠、何をもち、軒数のことを言ってるのか、面積、平米のことを言ってるのかちょっと質問の中身が分かりませんが、担当者から答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 小谷町民安全課長。

○町民安全課長（小谷 豊君） 最大浸水深は用土、古市の辺りだったと記憶しておりますけど、ちょっと今手元に資料がございませんので、後ほど答えさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 用土、古市もそうですよね、新市、七釜もそうですよね。栃谷も一部区域、要するに、ところが町長ね、このピンク色の一番濃いところ、それがどういう地域にわたっているかということと言ってるだけのこと。あなたが配られた防災マップについて指摘をしているだけです。町長はね、十分対応できるというふうにおっしゃったんだけど、数か所にわたって同時に最大浸水深に襲われる可能性というのが



あると。今の全国の、この数年間の豪雨災害、あるいはつい先日もニューヨークが大雨で浸水をしている、地下鉄に全ての駅に水が流れこんだというふうな報道もなされていきました。ドイツやベルギーなども大洪水、中国も大洪水。ギリシャでは逆に山火事がどうしようもないところまで広がっている。カナダでもそうだと。そういう地球温暖化によって、これまで想定できなかったような被害が実際に地球上の各地で起こっている。このことを無視できないと。そういう中で、本当にこういう最大浸水深が想定される位置に、こういうものを、大事な子供たちのこども園を設置していいのかという議論であります。ですから、対応できると言われましたけど、数か所にわたって同時にそういうことが起こる。あるいは、昨日議論があった土石流による災害が発生した、こういうことが同時に起きる可能性があるわけですね。本当に十分対応できると言い切れるのかと。しっかり考える必要があると思うんです。いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 自然災害に対して100%というのはあり得ないというのが、今の歴史が示しているところであります。谷口議員は完璧を求めたそういうまちづくりということを行っていると思うんですけど、被害を想定した上で、まちづくりというのは現実的ではない面もある、そのように考えております。いかに自然災害に対して避難訓練をするとか、そういった対応策が最も大事であると考えております。10メートル、いつ水深がなるか分からないわけですけど、それは保育園のみならず町全体の大きな被害につながるわけですから、ぜひ1つをもって極論的な考えをするということは、私はまちづくりにとってはどうかと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 町長、私が言っていないことを勝手に私が言ったかのように表現することはやめていただきたい。今町の中では、私が豊岡へ帰るんだということがあちこちで広がっている。どなたがそういうことを広げていただいているのか知りませんが、私はそんなことは一度も言ったことはありません。しかし、あちこちの方から、あなた、豊岡に帰るんだってというふうに今言われています。ぜひそういう、私が言っていないことを言ったかのように言うことは、改めていただきたい。

肝腎なことは町長は十分検討して、4年間現在地で提案を繰り返されている。議会はしっかり議論をして、現在地はふさわしくないということを返している。それがこの4年間でした。ぜひね、町長、町の財政状況、これもしっかり検討していただきたい。まちづくりということを繰り返し言われていますが、本当にまちづくりをしっかり検討していただきたい。まちづくりを検討する、その検討項目として新温泉町人口ビジョン、地方創生総合戦略、国土強靱化地域計画、公共施設等総合管理計画、水道事業経営戦略、下水道事業経営戦略、温泉事業経営戦略、行財政改革大綱、財政収支計画、こういう本当に町の骨格をどのようにつくっていくのか。しっかり全体を通じて、検討して、1つの施設を新たに設置するというのを慎重に進めなければ、本当に人口が大幅に減って

いく。2060年で7,000人という見通しが示されております。私が言ってるんじゃないんですよ。町の資料の中にそういうふうには示されています。そういう中で、本当に財政的な余裕があるのか、そのことも踏まえて、どこがいいのか、子供たちにとってどこが安全な場所なのか。そのことは欠いてはならない点検項目ではないでしょうか。ぜひもう一度しっかり検討をしていただきたいということを述べて、最後の質問にしたいと思いますが、答弁いただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 財政的に考えると、現在地でやれば合意形成、それから、今までの土地が生かせるとか、非常に財政面での負担は現在地のほうが少ないと。新たに全く新しいものを造るとそれ以上のものが要するという事は、自明の理ではないでしょうか。そういった視点で、より大きい、何ていいますか、大きい視点でまちづくりを考えると、やはり生命は絶対守るというのを基本に置いて全体像を考えるという場合、やはり現在地が最適ではないかな、そう考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 町長、町長が検討されている現在地での建設費用はおおよそ10億円です。この10億円を我が町が新たな建設投資できる、本当に財政力を持っているというふうにおっしゃるなら、ちゃんとその根拠を示していただきたいと思うんです。私は大変不安に思っています。ですので、町長こそ決めつけしないで、職員の皆さんとしっかり協議をして、本当にここなら大丈夫だよと、それはこういう根拠に基づいて言えるんだよということを示していただきたいと思うんです。ほとんどそれぞれの担当課と協議をされたという足跡が見えません。私はこの質問するに当たって、そういう資料も含めて検討経過も示してくださいというふうにお願いをしておりましたが、検討経過も検討内容もお答えをいただけませんでした。それは、やっていないからとしか考えようがないんですね、それぞれの課長に聞いても。私が先ほど読み上げた町にあるいろいろな計画などの資料を基にお尋ねをしても、そんな協議をしたことがないということでもありますから、もう一度それぞれの所管課としっかり検討して、いい提案をしていただきたいというふうに思います。

私事で申し訳ありませんが、初めて立候補してから35年になりますが、この期をもって議員生活を閉じたいというふうに考えています。これまで御支援をいただきました町民の皆さん、そして先輩議員や同僚議員の皆さん、当局の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。以上で終わります。

○議長（中井 勝君） これをもって、谷口功君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。40分まで。

午前11時33分休憩

午前11時40分再開

○議長（中井 勝君） 再開します。

次に、7番、太田昭宏君の質問を許可します。

7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） ただいま議長より発言の許可を得ましたので、質問を始めます。最後になりましたので、幾つか同じ質問があるかもしれませんが、よろしくお願い致します。

まず、人口減少についてお尋ねします。同僚議員も質問していましたが、人口減少は新温泉町の大きな課題です。新温泉町人口ビジョンで、2040年の人口を9,193人と予想しています。ただ、予想に使われている合計特殊出生率、これは先ほど町長がおっしゃった1.43、あるいは、先日厚労省も発表した全国平均1.34よりも大きな数字が使われています。したがって、2040年を迎えたときに新温泉町の人口が7,000人台になってるかもしれません。新温泉町は、消滅可能性の高い自治体とも言われています。町長は危機感を持っていろいろ取り組まれたと思いますが、どのようなことに力を注がれましたかお尋ねします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨日、一昨日と取り組んだ施策について一般質問をいただいております。子育て対策は最重要課題の1つであります。そういう思いで取り組んできたということでもあります。高校生までの医療費の無料化であるとか、そういったところを重点的に施策としてやってまいりました。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） それらの取組を通して、町長が成果と思われるということはどういう点があるのでしょうか。また、今後工夫改善が必要だと思われるようなことは何かありますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 成果というのは、そういう施策によってどのような効果が生まれたかということであると思います。結果的に、成果が出るというのは5年後になるかも分かりませんし、20年後になるかも分からない。例えばそういったいろんな子供の支援策を通して、この町に対する思いやり、それから将来大きくなったときに新温泉町に帰ろうかなとか、そしていろんな提言をしようとか、いろんなことがあると思います。今日打った手が、明日すぐ成果が出るというものもあるかも知れませんが、長い目で見ていきたい、そう思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 先日読んだ日本経済新聞に、「人類史、迫る初の減少」という見出しの記事が載っていました。これは、アメリカのワシントン大学が、世界の人口は2064年の97億人をピークに減少するという衝撃的な予想を発表したという

内容です。国連は、2100年に世界人口が109億人になるまで増え続けると発表していました。しかし、出生率が想定以上に落ち込む見通しであり、人類の爆発的な膨張は終わり、人口が初めて減少する。出生率が回復しなければいずれ人類は消滅するという予言がなされています。しかも、少子化を押し戻すことに成功した国はほとんどないという指摘もあります。この記事に対して、町長はどのような感想をお持ちになりますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ダーウィンの種の保存という、そういうことも聞いております。マンモスも滅びた、いろんなことでもう人類もどうなるか分からんということは言えると思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） この危機的な人口減少という新温泉町の課題は県の課題でもあり、国の課題でもあり、地球上人類の課題でもある。そうすると、人口減少に対する取組というのは、他市町も必死に取り組んでると思います。同じような取組を新温泉町がしても、財力が少ない分、効果というのが十分に出てこないことも予想されます。今こそ町民の力、知恵を出し合って、この危機に取り組んでいくことが大切だと思いますが、町長、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員のおっしゃるとおりだと思っております。町の持っている魅力、町の持っている力、資産、自然、温泉も含めてですけど、そういったものをどう人口増にというか、町の次の時代をつくるまちづくりに生かしていくか、そういうところが大きな鍵になると。そういった中で、住民参画を基本に移住・定住としていろんな知恵をいただいて、まちづくりを考えていくということが大事だと考えております。今は一つの大きな転機ではないかと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） まさしく町長がふだんおっしゃるアイデアをここで使って、この危機をチャンスに捉えるということも大切なことだと思います。そのためには、限られた財力、限られた資源等を広く浅く使うのではなくて、焦点化して重点的に絞って取り組む必要があると思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そのとおりだと考えております。こういったときは、分散から集中といいますか、やっぱりそういうエネルギー、力を集結させるということが大事だと考えます。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） どのようなことに焦点を当て、あるいは重点化して取り組むのがいいと思われますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町名が新温泉ということで、やはり温泉を使ったまちづくり、これを大きく、今までもやってきたんですけど、これからも温泉を軸にしたまちづくりを進めていきたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 私は、一つは以前御提案申し上げましたが、Uターンに重点を置いてはどうかというふうに思います。ここで生まれ育った子供たちは、この地域に対する愛着があります。帰ってこようという希望を持って人に対して、インターンシップ制みたいなものを取り入れ、2年間ぐらいの生活の補助を与える。あるいは、空き家を改装しながら住居も与える。結婚してそこに住まれたら、もう住居も譲渡してしまう、そういうようにしてUターンに重点を置くことはどうでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） Uターンも大事だと思っております。高校生アンケートによりますと、昨年アンケートを高校で取っているわけですけど、約3割がUターンしたいと。新温泉に帰りたいという高校生のアンケートが出ております。Uターンは極めて重要だと思っております。一方で、出さない努力、働く場がないから仕方なく、親の家を継ぎたいけど、出なければならない、そういう家庭も相当数あります。そういった意味では、まず出さない努力も必要だと考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） もう一つアイデアとして、男性の育児休暇100%取得というのを掲げてはどうでしょうか。第2期子ども・子育て支援計画のアンケートの中に、子育てをする上での相談相手や相談場所という質問に対して、8割近い人が配偶者と答えています。男性が100%育児休暇を取得することができれば、安心した子育てができる環境が整うと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 考え方は素晴らしいと思っております。ただ、実際の事業所がそういった状況におけるかどうかというのが大きな鍵になると考えております。例えばこの新温泉町役場でも、男性が育児休暇100%を取ると、現状では極めて業務に支障が出てくる可能性が高いと考えております。日本全体のそういう雰囲気、それから制度の在り方、そういったものが非常に、全体像のそういった構築が極めて、意識啓発も含めて大事だと考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 男性育児休暇100%取得というのを掲げれば、それでまたこの町に移住・定住される方も出てくるかもしれませんし、いずれにしてもさっきお話ししたように、20年先、30年先になればこの町はどんどんどんどん小さくなってきます。やはりそれを考えていくと、これは無理だな、あれは無理だなということだ

はなくて、町長がよくおっしゃるように無理なことでも、考えて無理ではなくて、行動してみるということが大事だと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 行動は好きですので、確かに行動してみるとということには価値があると思います。ただ、世間一般の流れとやはりよく連携しないと業務ができない、極めて一般の事業所などでそういう制度を入れたら倒産するとか、そういう事業困難に陥るとか、そういうこともないとも言えません。そういった制度を構築する場合は、やはり全体の合意形成、それから制度の全体像の見直しが必要だということを思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 施策をつくっていくことも大事なんですが、人口が減っていく中で、この新温泉町の行政組織等の改革も必要にはなってくるんじゃないかと思いますが、その点はいかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 標準的な行政運営の仕方、人員配置であるとか、そういったものが公には求められておりますので、極端なことではできないという具合に考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） これから町がどんどんどんどん小さくなっていくと、今まで利用できていた施設、あるいはサービスというようなこともひょっとしたら低下したり使えなくなったりするかもしれません。やはりこの現実を住民の方々に説明し、理解を求め、協力していただくことも必要ではないかと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 住民へ十分な情報公開、説明責任を果たして、住民の意見を聞いて参画していただくということは当然必要だという具合に考えております。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

昼食休憩といたします。午後は1時から。

午前 11時 55分 休憩

午後 1時 00分 再開

○議長（中井 勝君） 再開します。

先ほどの質問の答弁漏れがあるそうです。14番、谷口功君の質問でしたね。じゃあ、答弁を。

小谷町民安全課長。

○町民安全課長（小谷 豊君） 先ほどの最大浸水深の関係でございます。想定最大規模降雨での最大浸水深は、古市で8.4メートルということでございます。なお、ハザー

ドマップの凡例につきましては、今申しましたように、最大浸水深が8.4メートルということで、本来5メートル以上10メートル未満と表記すればより分かりやすかったところではございますけども、10メートル以上がないということで5メートル以上とさせていただきますということですので。それで、その中で、ハザードマップの中で11ページに浸水深の目安ということで紹介させていただいてまして、そのところで一応0.5メートル未満が床下程度が浸水する目安、それから0.5から3メートル未満が床上から1階が浸水する、3メートルから5メートル未満が2階部分も浸水する、5メートル以上になりますと2階部分も水没するというので、町としましてはこういった浸水区域の方は、いち早く避難いただくということを基本にしておりますけども、3メートル以上になりますと2階部分も浸水するというので、逃げ遅れた場合の最後の手段の垂直避難も困難になるということから、3メートル以上の御家庭については垂直避難を考えるとなく、早期に避難いただきたいということで、そのような区分で啓発を、啓発というか、昨日もマイ避難カードの記載もございましたけども、いち早く避難いただくということを啓発してまいりたいと思います。以上です。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。

午後1時02分休憩

午後1時03分再開

○議長（中井 勝君） 再開します。

午前中に引き続き、太田昭宏君の質問を続行します。

7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 次に、新温泉町のまちづくりに関する高校生のアンケートについてお尋ねします。このアンケートの結果報告書が3月に出されています。次代を担う高校生の将来の進路やUターンの意向を把握するための調査とあります。対象が浜坂高校の全校生徒とありますが、他の高校へ進学している生徒もいますし、進学せずに就職した人もいると思います。なぜ浜坂高校の生徒だけを対象にしたのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教育長のほうに答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○町長（西村 銀三君） 訂正します。

○議長（中井 勝君） もとい。

○町長（西村 銀三君） 企画課長に答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 中井企画課長。

○企画課長（中井 勇人君） 統計を取る上での規模であったり、事務的な部分での回収等のことを考慮して地元の高校でのアンケートを取ったというところがございます。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

- 議員（7番 太田 昭宏君） じゃあ、このアンケートは企画課が作成されたんでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） はい、企画課であります。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） このアンケートの結果を第2次新温泉町総合計画、後期基本計画策定するために活用するとありますが、この分析というのは終わっているんでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 分析は終わっております。冊子でまとめてあります。こういった計画を今回の、次の、後期の計画に生かすという段取りであります。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） このアンケートの結果を生かすというのであれば、ほかの学校に進学している生徒、あるいは進学しないで就職してる人もいるかもしれませんし、やはり全員の意見を聞くということは大切ではないでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 全員聞くのが一番正確なデータが出ると思います。大きな流れをつかむという意味で、浜高、地元唯一の高校です。そういった意味で、浜高に限定させていただいております。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） このアンケートの質問に、新温泉町を若者にとって魅力的な町にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。また、新温泉町のまちづくりについて自由に書いてくださいとあります。この質問の意図はどういうことでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 町の魅力アップのための意見をいただくということから、この計画に生かすというのが目的であります。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） じゃあ、このアンケートに書かれた提案等に対して、町はどういう対応というか、動きというか、されるんでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 例えばUターンしたいという方が31%ですか、32%ぐらいあるわけですけど、一方で、帰りたくない、そういった意見もあります。では、そこに何が原因があるか、そういったところをやはり研究することによって、次のまちづくりの足りない分を施策として打ち出していく、そういう視点であります。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。



- 議員（7番 太田 昭宏君） 町として、若い人が町に魅力を感じるような取組というのはされていないのでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 若い人が魅力を感じる取組、当然いろんな社会教育も含めていろんな施策を実施をさせていただいております。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） せっかくのアンケート、町長がよくおっしゃるアイデアということを考えれば、この町の取組を高校生に知ってもらう機会もあると思うんです。だから、この2つの質問をされるのと同時に、町は魅力あるまちづくりのためにこういう取組をしていますよ、このことに対してどう思いますかというのを聞いて、さらに魅力的なまちづくりをするためにという、そこの質問があればもっとよかったと思うんですが、いかがでしょう。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 一昨年ですけど、高校生から意見をいただいております中に、町長が風呂に入るところを撮ってPRしてというふうな意見もありましたので、この6月ですか、早速実施をユートピア浜坂でさせていただきました。そういった意味で、そういう成果も含めて、今回浜坂高校に町長の話す時間をつくってほしいという要望を出しております。なかなか時間が取れないよということで、今現在いい返事は来ていないというのが現実であります。改めて要望を出したいと思っております。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） 私も以前、18歳の子供たちの意見を聞くような会議をつくってはどうかということも提案させていただきました。子供たちの意見を将来のまちづくりに反映させるのであれば、やはり高校に出かけて行って、あるいは直接向かい合って意見を交流することが大事だというふうに思います。アンケートでまちづくり、どういう提案がありますかという安易な方法ではなくて、やはり役場の職員一人一人が出かけて行って意見を聞くような、交流するような場が必要だと思いますが、いかがでしょう。
- 議長（中井 勝君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 浜高との協議会の場は当然これまでからやってきております。私も個人的にも時間見て浜高に、これまでから何度も足を運んできております。そういった中で、交流がないという、そういう状況ではないと考えております。議員も含めて、積極的に状況確認、勉強に行っているいろんな提案をいただいたらと思っております。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） 高校に行って、高校生つかまえてちょっと話を聞かせえやということも可能ですが、やはりそういう場をつくり意見を交換するという時間や場所を考えようと思ったら、それぞれが努力をしないといけないというふうに思います。

だから、きっちりとそういう場をつくって、お互いの意見が交流できるという、そういうことが必要だと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 聞くところによりますと、議会でもそういうメンバーがあって、浜高と話し合いの場をしたいということでやったと、たしかやったと聞いたんですけど、そういう場があったと思いますので、そういうところをどんどん推進されたらどうでしょう。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 確かに若い人の意見を聞くということは、非常に大切なことだと思います。相対性理論を発表したアインシュタインは、古い思考の枠組みの中で考えても、新しい問題は解決できないというふうに言ってます。だから、まちづくりに高校生や若い人が参加して、私たち経験を持ってる年配、交流しながら、力を合わせながら町民全体が協力し、努力し、まちづくりをしていくことが大事じゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員のおっしゃるとおりだと思っております。若い人の力はやはり次の時代を担うわけですから、当然大事だと思っております。ただ、若さっていうのは年齢ではないと。若い、発想力というのは、僕もそうですけど、年を取っても何ぼでも出るもんだと思っております。若さは年や、何ていいますか、年で限定することはできないと。いろんな発想力は、若くても年寄りでもどんどん出てくる、そういうものだと思っております。ただ、若さは大切です。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 発想力は、年に関係なくいろんな発想は出てくると思います。ただ、若いという年齢的なものというのは、やはり次の世代を背負っていくということで、若い人を育てるということも私たちの役割の一つだと思います。私たちが30年、50年、100年生きるわけではないんですし、やはり時代が変わっていきます。その次を担う人たちを育てるということも、私たちの役割だと思います。いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 副町長からお答えをさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 浜坂高校自体もグローバルキャリアの、グローバルというのはThink Globally、Act Locallyということで、Locallyというのは地域に根差した活動をしていくということで、この町をフィールドとして学習していくという姿勢を強めてきていると思いますので、そういった機会につきましてはできるだけ今後、そういった機会も検討すべきではないかというふうに思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 次の質問に入ります。まちづくりと文化財の保存活用についてお尋ねします。7月に行われた民生教育常任委員会に、新温泉町文化財保存活用地域計画策定支援業務というものが出されました。目的は、令和6年から10年間の新温泉町文化財保存活用地域計画を作成するためということのようです。現在本町には、平成26年に作成された新温泉町歴史文化遺産活用計画があります。まず、この計画の歴史文化遺産というのはどのようなものを指しているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 歴史文化遺産ということであります。具体的に、麒麟獅子舞など、それから日本遺産に認定された麒麟獅子舞、それから北前船寄港地、それから久谷のざんざか踊り、いろんなものがある中で、各集落にそういった遺産、伝承されているものが残っております。そういった施設を文化遺産として活用をしていただいております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 今、保存、活用とおっしゃいましたが、まず保存についてはどのような取組をなされているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 詳しい保存方法につきましては、担当課より答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 文化財の保存につきましては、町で行っている施策としましては、各地域の保存会、文化財を保存している団体への補助としまして、町文化財保存団体補助事業を行っております。また、そのほか活用推進としましては、日本遺産の活用推進事業、北前船、麒麟獅子舞などの推進事業を行っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） その保存に係る費用というのは、どういうふうに出されているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 保存団体が24団体ありますが、毎年希望を取りまして20万円以上の保存に係る費用につきまして2分の1、10万円を上限した補助を行っております。高額になる場合は、県とか国の補助等を利用しながら文化財の保存の費用としていただいております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 先ほどの町長の説明の中で、歴史文化遺産というのが説明されたんですが、麒麟獅子舞、ざんざか踊り、傘踊り等、保存会が伝承してるものばかりではなくて、例えば神社仏閣、遺跡というようなものは含まれてはいないんですよ。

うか。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 歴史文化遺産につきましては、文化財保護法や条例に基づき、規定、指定されている文化財以外のその地域に分布している全ての歴史や文化を構成する全ての文化財、指定の有無にかかわらず歴史文化遺産としております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） ちょっと説明がよく分からなかったんですが、具体的に、例えば神社仏閣というようなものは歴史文化遺産というふうに考えていいんでしょうか。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 神社等も50年以上経過したものにつきましては、この範囲とさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 神社仏閣を含めて文化遺産と言われるもの、踊りとか継承されてるもの以外に、建物あるいは遺跡として残るものの保存についてはどのようにされてるんでしょうか。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 今現在、その文化財の保存の費用につきましては、所有者の方の負担で保存していただいております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 所有者、例えば町が所有しとるものであれば町が保存の費用を出してるということでしょうか。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 原則はそのようにさせていただきます。保存団体がある分については先ほど言いました補助事業として、限度額はありますが、補助をさせていただきます。また、個人の所有のものも何とかほかのいろんな補助事業がありますので、相談を受けた場合はいろんな県の事業等を活用できないかというような相談は受けさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 例えば畑ヶ平にある遺跡とか芦屋城とか、そういうものの保存というのはその所有者、あるいは町であれば町がしてるということですか。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） すみません、芦屋城と畑ヶ平の遺跡につきまして、ちょっと調べましてすぐ報告させていただきます。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） いや、具体的にそれがどうこうではなくて、いっぱい文化遺産と言われるものがあると思うんですが、その保存。先ほど町長がおっしゃった

ように、伝統芸能に関しては保存会があると。じゃあ、神社仏閣とか遺跡とか、そういうものの保存はどうされてるかということなので、個々にどうしてるかではなくて、それだけ示してもらったらいんですけど。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 町が所有しているものにつきましては町のほうとなりますし、先ほども説明しましたが、個人の方が所有されているものにつきましては個人の方にお問い合わせ、また地域で守っておられるものにつきましては地域の方にお問い合わせしている状況であります。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 質問を替えます。活用計画の中に、文化財は地域の個性や歴史を表す地域の宝物として、単に保護するだけではなく、文化財を現代生活の中で積極的に活用することが求められているというふうに書かれています。この具体的な活用例を教えてください。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 民俗芸能につきましては、麒麟獅子舞というような保存団体、地域の方で保存して活用していただく、またそのほかの文化財につきましてはその文化財を地域の宝として、例えば学校教育などでその文化財を含めた地域のよさを伝えていく。それから、またその文化財を使いまして地域が広がれば、点と点をつないだ活用、観光につなげるとか、そういうことも考えていくことができると考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） そういう取組をされてる中で、課題というものはありませんか。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 課題につきましては、たくさんあります。少子化、高齢化により文化財を保存していく方が、伝えていく方が少なくなっていること。それから、集落の文化財の担い手不足っていうのも保存に関する課題。それから、今までの計画の中で、災害から文化財を守るといような視点での課題。それから、活用するためのいろんなノウハウとか支援体制。それから、金銭的なこと等課題があります。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 今課題がたくさんあるというふうにおっしゃいましたが、私は価値を伝えていくということが大きな課題だと思います。麒麟獅子舞とかざんざか踊り、傘踊りなど、保存会で傳承されている伝統芸能、これは見聞きすることができずし、非常に持つてる価値とか伝わってきたものとかっていうのを見ること、体で感じることができます。でも、天然記念物あるいは遺跡跡、神社仏閣、町並み、そういうものにはなかなか直接関わることができませんし、その価値というものについては私たち

でも分かりづらい、まして子供にはなかなかその価値は伝わらないと思います。そういうことを考えて、ぜひ何らかの方法を考えていただいて、子供たちにその文化遺産が持っている価値が伝わるような方法を考えていただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 文化財は本当にその地域の宝だと考えております。また、子供たちに伝えるということも非常に大事なことでありますので、今現在学校におきまして、また八田コミュニティセンターとかいろんな場所でこの文化財を活用してのふるさと教育を行っておりますので、これを充実させること。また文化財という言葉自体が町民の皆さんに浸透していないではないかというようなこともありますので、地域の宝物として子供、それから大人の方全ての方に、文化財という価値を再認識していただくように事業を進めていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） この件についてもう1点だけお尋ねします。令和6年度に作成される新温泉町文化財保存活用地域計画と、今の新温泉町歴史文化遺産活用計画、これに違いがあるかどうかというのが1点と、もう1つ、町のほうが計画をつくりリードしていくわけですから、町の中に文化財を守る、育てるという人が継承というか、育てているのかどうか、それをお尋ねします。

○議長（中井 勝君） 谷渕生涯教育課長。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 歴史文化遺産活用計画と、今年度から取り組みます文化財保存活用計画の違いにつきましては、歴史文化遺産活用計画につきましては、アクションプランの部分少し実効性に乏しくなっております。この事業を何年度までに行うというような具体的な明記がされていないということで、そこが一番大きな違いであります。今回取り組みます文化財保存活用計画につきましては、より実効性のあるものという位置づけで、今回新たに策定することとしております。より実効性のある計画とすることで、文化財を次の世代につなげていくという計画にしたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 人材は育成されてますか。人材はそろってますか。

○生涯教育課長（谷渕 朝子君） 文化財の保存活用する人材につきましては、これも大きな課題となっておりますが、なかなか人材不足というところがありますが、一人でも多くの人材を育てていきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） この文化財保存活用計画のプロポーザルの委員長をしまして、提案を受けましたので、少し補足をさせていただきます。今回、活用ということが非常に前面に、法的にも改正されて出てきております。その中で、一つ一つの文化財等を物語や歴史、それを点であるものを線にしていくということで、その業者の提案も4つの道というふうなことで物語性を加えると。それを親しみやすいものにするによって、若い世代、子供にもそういった物語を理解していってもらって、そういった

人材も増やしていくということが目的だというふうに思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） それでは、次の質問に入ります。新学期を迎えた子供たちの様子を聞きたいと思います。2学期が始まって元気に登校する子もいるでしょうし、ひょっとしたら宿題がまだ終わってなくて憂鬱な気持ちで登校してくる子もいるでしょう。どんな新学期の様子か教えてください。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 昨年度は、夏休みってというのがすごく短かったんですけど、今年は例年の夏休みということで、長い夏休みを終えて子供たちがどんなふうに登校してくるのかというようなことで、夏休みの間もやはり子供たちに対する目を、教育委員会としてもいろいろ指導主事に出向いてもらって、学校での夏休みの様子の中で何か問題がないかというようなことでの聞き取りもしてきました。新学期が始まりまして、指導主事にまた行ってもらって、今学校の子供たちの様子はどうかというようなことで確認をしてきております。今のところ、長い夏休みを終えましたけれども、大きな事故や事件等、そういったことは聞いておりませんし、元気に登校はしているというようなことは聞いております。ですが、やはり子供たちの中に、長い夏休みの中で生活習慣がやっぱり乱れてる子供たちもおります。すぐに自分のリズムを取り戻せる子もいれば、時間がかかる子供もおります。人それぞれそういったことがありますし、そういった不規則になってる子供たちに対する手だてというのも非常に大事だと思っております。

また、ちょっと運動面なんかに関しましても、やっぱり昨年度から引き続いてることですが、コロナ禍の中で、やはりちょっと運動が制限された部分がありますので、そういった体力面等のことも気にしていかなければならないというふうに思っています。その中で、運動会の練習等が始まっていくわけですが、熱中症のことも含めてしっかりと気をつけて、健康づくりに気をつけて、気を配っていかないといけないというふうに思っています。

先ほど申し上げたように、元気に来ているという様子、外で見ている様子はそうだけれども、やはり表に出せない子供もいます。自分が困ってるということを言えない子供もおりますので、そういったところに細心の注意を払っていく必要があるというふうに考えています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 適応指導教室の様子はいかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 適応指導教室につきましては、実は夏休みも可能な限り開設をしております。やっぱり通ってた子供たちの中に宿題のことが心配であったり、やっぱり生活習慣、おうちの方にすればせっかく確立されてきた生活習慣が乱れるということの御不安もありましたので、夏休みも開設してきました。子供たちも通ってきて宿題

をやったりとか、夏休みは過ごしております。そして、9月に入りまして、また、適応指導教室のほうには以前から通ってる子供が今現在も通っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 適応指導教室については町内に設置していただき、さらに専門の担当をつけて、指導の皆さん、非常に取組が前向きで安心しています。次には、あそこ今スペースを一つ間借りしているような状態ですが、やはり机も個々の机、それから、ネット環境はまだできてないと思いますが、その辺の整備というふうにして、今度は適応教室の整備ということもしていけないといけないんじゃないかと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本当に今文化会館のほうを間借りしてる、本当にそんな形で開設をしているわけですけども、議員のおっしゃったように、やはり環境ってすごく大事だと思いますので、子供が来たときにやっぱり安心できる環境、それから気持ちを落ち着けて勉強に向かっていったり、いろんな社会で生きていく力をつけていくっていうためにはやっぱり環境は大事だと思いますので、机もそうですし、もう少しゆったりとした広い環境ということがやっぱり望ましいなということは常に思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 次に、緊急事態宣言が出され、コロナ感染拡大の様子が日々テレビで報道されています。前日テレビで、放課後、教職員の方が子供たちの椅子や机を丁寧に消毒しながら拭いている様子が映っていました。園児、児童、生徒への感染が増えています。再度、感染予防対策、これは十分できているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本当に、この緊急事態宣言の中での始業式になりましたので、そういったことについて校園長会の中で、本当により緊張感を持って子供たちの安全を、安心を守っていただきたいという話はしております。今、もう1学期ずっとですけども、本当に登校前の検温であったり健康チェック、そういったものも含めマスクのこと、不織布のこともそうですが、学校の中で消毒作業といったことにスクールサポートスタッフを配置しております。本当にその都度都度にきめ細かに消毒をしてもらっております。

放課後につきましての教職員の消毒体制ということですけども、今、業務の改善だとかいろいろ言われている中で、先生たちに負担がかからないようなスクールサポートスタッフを活用した消毒というようなことで、今、対応をしております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 国や県は、児童生徒に感染者が出た場合、学級閉鎖、学年閉鎖、休校等の基準を設けていますが、本町の基準というのはどのようになっているのでしょうか。



○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 感染者が確認されたり、濃厚接触者が確認された場合、まず、健康福祉事務所との連携を取って確認を取るようにはしています。学校を開けることによって感染が広がる場合と、長い休みの中で感染が確認された場合と、いろいろパターンがあるんですけども、感染が確認された時点で、やはり消毒ということが必要になってきます。学校内での感染が広がるというようなことは絶対抑えないといけませんので、そこを基準として、消毒作業を2日間で、健康福祉事務所の指示にもよりまずけれども、1日ないし、今であれば1日消毒作業をして、学校再開に向けていくというようなことも考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 市町によっては、例えばクラスの中に1人感染者が出た場合には、学級閉鎖をします。2人の場合には学年閉鎖をしますよというような数字的な基準を設けているところがあります。その判断は、したがって学校長の判断でできるわけですが、今のお話だと、保健事務所経由でその対策を考えるようなことでしたが、人数的な基準っていうのは全く考えてないんでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在、保健所との協議をしながら進めていくという形で進めておりますが、やっぱり濃厚接触者の確認であったり、そこは保健所との連携を密に取っていかないとできないところがありますので、1人感染が確認されたらそこからの動きが出てくるので、表を作って各学校には周知をしております。でも、そこには教育委員会と学校と保健所の連携をしていきながら対応を考えていくというふうにしております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） それは、都会と比べてこの但馬の感染者数が少ないからそういう対応でいいという判断なのか、やはり感染者の多いところは、もうすぐに対応しないといけないんで、人数的な基準をも示して校長判断でということを決めてるようなんですが、そこまで対応する必要はないというお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） いや、決して、そんな但馬の、新温泉町の感染が切迫してないとか、そんなことでのことではなくって、やはり子供たちの安心安全、先生方のことを含めて、安全安心をまず一番に考えるようにはしております。その中で、健康福祉事務所のやはり判断を仰ぐということはとても大事だと私思っておりますので、そこをスピーディーにしていくように、そこは連携を取るようにはしております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） スピーディーな対応ということで、判断を受けて、例えば1人、2人出た場合というのは、当然、想定されるわけですから、その対応というの

は考えておく必要があるのではないのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在の判断で、やはり感染者が確認されたら、そこからたとえ人数が1人、多い、少ないではなく、1人感染が確認されたら、もうそこから保健所と協議をして何日間とかいうところが決まりますが、1人確認されたら、そこは消毒作業が必要ということで、休校という措置は取るようにしております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 例えば、休校、学級閉鎖が出た場合に、その校名というのは発表するのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 学校名の公表については、中身については詳しくはしませんが、学校名については公表するように考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 緊急に対する対応ということも非常に大事ですし、学校の各校長先生方に理解を求めることも必要だと思います。さらに、学校名が出るような状況も今予想されますから、やはり人権に配慮した、子供たちに配慮した、親に配慮した、地域に配慮した取組も考えておく必要があるのではないのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 人権についての配慮というのが、もう一番大きいです。感染を広げないということ、それから人権の配慮ということは、もう本当に大事にしていかなければならない。どの対応を取るにしてもそこを抜かないで考えていく必要があると思っています。いろんなケースが出てくるとは思いますけれども、その都度、学校との連携を取りながら人権配慮をしっかりと進めていきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 例えば、学校が休校になったような場合に、タブレットを使った学習というのは可能なのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在、タブレットの持ち帰りもできる、家でのことはありますけれども、今すぐと、もしなった場合でしたら、いろいろ御家庭の協力も得ないといけませんので、そこは学校とも連携を取って、持ち帰る準備はしておく必要があると思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 阪神間の学校の様子を見ていますと、リモートで授業したり学級会をしたりしています。同じ時代に同じタブレットの配付があって、同じように流れているのに、なぜここに差が出てきてるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

- 教育長（西村 松代君） やっぱり子供たちの学びの保障っていうことは、一番すごく大事だと思いますので、そのために、家で子供たちが休むということになれば、当然、タブレットも利用した学びの保障ということも考えていくべきだと考えています。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） 先日、昨日ですか、同僚議員の質問の中で、浜坂中学校のインターネットのアクセススピードが遅いというような話が出ていました。修繕、改善の見通しがまだ立ってないというような状況だったと思うんですが、ほかの学校、夢が丘中学校とか浜坂北小学校というところは正常に作動してるんでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村教育長。
- 教育長（西村 松代君） 昨日お答えしたと思いますが、大きい学校につきましては、今現在、浜坂中学校と浜坂北小学校と温泉小学校と夢が丘中学校につきましては、まだ、一齐にインターネットにつながると止まってしまうというようなことが起こっております。今現在、業者との連携を取りながら対応をしているところでございます。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） 再度、同じ質問になりますが、なぜこの新温泉町、この地域と都会の学校と、何でこの差が出てくるんですか。
- 議長（中井 勝君） 西村教育長。
- 教育長（西村 松代君） 本当に、私もこの町の子供たちに格差があってはいけないということはずごく思っています。なぜ起こるのか、このインターネット環境の不具合とか、いろんなところでやっぱり時間がかかることがあったりとか、もっとスムーズにいけないのかなと思うこともあります。その違いについて、一業者にお願いをしても距離的なこともあって、来ていただくまでに時間がかかるというようなこともあったり、でもその中でも、すぐに対応していただけるように今全力ではやっております。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） 次の質問に入ります。児童数、生徒数の減少ということと、地域の展望についてお尋ねします。人口減少というのは、前半で申し上げましたように地球規模の課題であります。新温泉町の児童生徒数も減り続けている中で、この現状についてどのように思われますか。
- 議長（中井 勝君） 西村教育長。
- 教育長（西村 松代君） この人口減少ということについて、本当に大きな課題であるなと思っています。その中で、3月にまちづくりに関する住民アンケートの中で多かったのが、安定した雇用の創出、それから結婚や出産や子育ての支援、それから教育環境の充実、ふるさと意識の醸成というようなことで、教育環境については7番目になっております。そういったことで、保護者の皆様も安定した雇用や子育ての支援の充実を求めていると思っておりますし、教育に関することがやはり15.7%で7番目ということもありますので、人口減少のことについて歯止めをかけるという意味で、やはり教育の取

組というのは欠かせないものだと思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 教育長は、この地域で育っている子供たち、どんなふう  
に成長してほしいという願いを持っていますか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 新温泉町で生まれ育っている子供たちに、やはりここで学  
びを受けたことが、新温泉町で学んだことが、社会に出て、これからいろんなことが起  
こる多様なこの社会を生きていく中で、やっぱり未来を切り開く力強い力をつけて、子供  
たちには、ここを、新温泉町の教育でそういった力をつけて将来生きていってほしいな、  
力強く生きていってほしいな、どこの集団の中に入っても、どこの会社、学校なり行っ  
ても、やはり負けない力をつけて育っていってほしいなというふうに思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 地域の保護者、あるいはこの地域の方の願いというのは、  
教育長は把握されているでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 地域の方の願いということで、いろんな、教育長に就任した  
1年目のときに、まちづくり懇談会というのに参加させていただいたときに、いろんな  
皆様の御意見を伺う機会もありました。そのような場を設けて、そのときに教育に対す  
る思いだとか、そういったことは感じさせていただいております。

それから、地域の願いということで、できるだけ各学校からの、学校でアンケートを  
取っておりますので、そのアンケートの中のことを私自身もしっかりと把握していくこ  
と。それから、今コミュニティ・スクールということがスタートしておりますので、そ  
ういった中で、地域の皆様との交流の中でいろいろ意見をお聞きしたいというふうに思  
っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 例えば、教育長自身が地域に出かけて行って、本町の教  
育の説明や地域の人との意見交換というような場はありますか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在、地域に出かけて行って本町の教育についてというこ  
とは、説明する場というのは設けておりませんが、今年度、新温泉町の教育をできるだ  
け多くの人に知っていただきたいということでリーフレットを作ろうと、今現在作って、  
どのように皆さんに知っていただくかということで取組をしております。リーフレット  
の形で新温泉町がどんな教育をしているのかということ、地域の皆様や保護者の皆様  
に少しでも知っていただけたら、応援していただけたら、そういった材料になればと思  
って広報していきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 園児、児童、あるいは生徒の保護者の方には、やはりたくさん不安を持っての方がおられます。例えば、今のクラスの人数が少ないことに対して、これから先、大勢の人と交わったときに、果たしてその中で子供たちが、自分の子供が力を発揮して生きていけるだろうか。あるいは、この小さな集団の中で勉強は身につけているのだろうか、そういう不安を抱えている方もおられます。それから、新温泉町の子ども・子育て支援事業計画の中に、子育て家庭の状況及び子育て支援ニーズの調査というのが載っています。これを見ると、お子さんにどのような人に育ててほしいと思いますかという質問で、1番が、人の意見に耳を傾け柔軟に受け入れられる人、2番目に、公共心や社会常識、マナーを身につけた人、3番目に、逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人というふうにあります。教育長の願い、それから本町の教育、それらはこれらの不安や期待に沿ったものだというふうに考えていますか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、議員がおっしゃったように、保護者の皆様が不安に思っておられること、じゃなくて、すみません、どんな子供に育ててほしいかという願い、これにつきましては、コミュニティ・スクールの中でも、地域の皆さんがどんな子供に育ててほしいかというアンケートを取った中にも、今言っていたいただいたようなことが入っておりました。こういう子供に育ててほしいという地域の皆様の願いに応えるべく、やはり教育を推進していかなければならないと思っています。少人数で、今、小規模校であっても、いろんな工夫をしながら学校教育を推進していってもらっています。小さくても人数が少なくても、そこに教育の光がある、そういった子供たちが一人一人が輝ける、そういった教育をやはりしていかなければならないというふうに思っております。これは、本当に地域の皆様の協力を得ながら、学校と地域と家庭と、本当に三者で子供たちを育てていくという方向でしっかりと教育をしていきたいというふうに思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 少人数学級、あるいは小規模校、今教育長がおっしゃった、一人一人が輝く教育、この小さな小規模校の中でそのような取組がなされ、一人一人が生かされている。保護者の不安としては、じゃあ、それで本当に自分の子供がそういうふうになってるのかという、やっぱり心配があります。以前にもお尋ねしましたが、例えば少人数学級、小規模校で学習が身につけている、じゃあ、その根拠として、例えば学力状況調査があります。ここで十分に学習が身につけてますよというような数字的な根拠、あるいは個々に応じた体力づくりで体力がこれくらいつきましたという数字、あるいは、絵画、入選が増えたとか、何かそういう、教育長の思いはよく分かりますが、親とすれば何か具体的な説得力があるものが欲しいと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 抽象的といいますか、本当に各学校ではしっかりと子供たちの力はあると思っています。ただ、議員のおっしゃったように、具体的な数字と

ということでの示し、いろいろなことがありますので、協議も必要と思いますが、やはり子供たちが頑張って獲得してきているものについて、やはり保護者の皆様に知っていただくということは大事なことだと思っておりますので、小規模校で取り組んでいる、今も本当に社会に出て力強く生きていくために、いろいろな人との交わりをつくる教育も進めております。タブレットが導入されたことで、今後、さらに学校同士の交流であったり、海外との交流であったり、いろいろなことに発展できると思っておりますので、そういったことも取り入れながら、今学校がしっかりと取り組んでいる学力、それから体力、そういったことにつきましてもどういった形で示すことができるか、そのことをしっかりと、今後、検討していきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） それでは、最後の質問で、10年先のこの新温泉町の教育、10年というとあつという間に時間的には過ぎると思っております。この10年先、どのような展望を持っているか、お尋ねします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 10年後に児童生徒数が現在の半数になるということが想定をされています。学校の規模の適正化に集団の中で多様な考えに触れる、認め合ったり協力し合ったり切磋琢磨するということが、やっぱり一人一人の資質能力を伸ばしていくということにつながっていくと思っております。今後、いろいろと極端に児童生徒数が減るということ、減少するということで、やはり環境が維持できないというようなことも考えられると思っておりますので、今後はやはり、昨日も申し上げましたが、町長部局との連携を取りながら、新温泉町の子育て環境の充実を図っていききたいというふうに思っておりますし、魅力ある教育を推進して、やはり持続可能な社会の担い手となるような子供たちにつなげていききたいというふうに思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 教育に対する課題はやはりたくさんあると思っております。ただ、課題解決というふうなことを考えると、どうしても眉間にしわが寄ってきます。未来を語る教育ですから、ばら色な議論ができることを願って質問を終わります。

○議長（中井 勝君） これをもって、太田昭宏君の質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

暫時休憩します。20分まで。

午後2時07分休憩

午後2時20分再開

○議長（中井 勝君） 再開いたします。

○議長（中井 勝君） ただいま休憩中に協議いたしましたとおり、令和3年度新温泉

町一般会計補正予算（第４号）並びに特別会計６会計及び公営企業会計２会計の補正予算につきましては、休憩のままで説明を受けることにいたします。

暫時休憩いたします。

午後２時２１分休憩

---

午後３時０３分再開

○議長（中井 勝君） 再開いたします。

以上で、休憩中における令和３年度新温泉町一般会計補正予算（第４号）並びに特別会計６会計及び公営企業会計２会計の補正予算の説明は終わりました。

---

○議長（中井 勝君） お諮りいたします。本日の会議はこの辺で延会したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中井 勝君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

次は、９月１３日月曜日午前９時から会議を開きますので、議会議事堂にお集まりください。長時間お疲れさまでした。

午後３時０５分延会

---